季刊
とらやまの森

発行 対馬野生生物保護センター　Phone：09208-4-5577
〒817-1605　長崎県上県郡上県町棹崎公園　Facs.：09208-4-5578
環境省自然環境局 対馬自然保護官事務所内　E-mail：BR-TSUSHIMA@env.go.jp
（省庁再編に伴い1月6日より事務所のメールアドレスが上記に変更になりました）

12月14日もとの山に帰る若ヤマネコ
「元気でね！」（2ページ参照）

来館記念のスタンプを押そう！

玄関ホールのカウンターにある対馬野生生物保護センター来館記念スタンプ。
ここに押してね。

寒中お見舞い申し上げます。世間では、年が改まり世紀も新しくなり、省庁は再編されて名称が変わり、大きな変化の時代を迎えているようですが、対馬の生きものたちの営みを見つめていると、去年と何も変わらない冬の日常を過ごしているように見えます。毎号月の第1日に発行していた「とらやまの森」ですが、今号だけは発行日をずらさせていただきました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

◆対馬野生生物保護センターの活動から……P.2～3
◆やんばる野生生物保護センターの紹介……P.4～6
◆対馬の動物シリーズ⑪：「ツシマジカ」……P.7～9
◆フィールドノートから　～ツシマヤマネコの自動撮影について～
……P.10～11
◆寄稿
・國分英俊「オウゴンオニユリについて」……P.12～13
◆野生動物のニワトリ小屋への被害防止について……P.13
◆対馬で季節の訪れを告げるもの：「梅」……P.14～15
◆福岡市動物園のツシマヤマネコ情報コーナー……P.15
◆対馬野生生物保護センターからのお知らせ……P.16

[とらやま]とは

対馬ではツシマヤマネコ・ツシマテン・チョウセンイタチなど山に棲む中型獣をまとめて「やまねこ」と呼んできたそうです。そしてツシマヤマネコのことは虎毛のやまねこという意味で「とらやま」と呼んで区別してきたとか。昔から親しまれてきたこの「とらやま」が暮らす森がいつまでも残るように、という気持ちを込めて、私たちのニュースレターに「とらやまの森」と名づけました。

対馬野生生物保護センターの活動から

「ツシマヤマネコを語る集い」開催される

⬆熱心な意見の飛び交う会場の様子。

2000年11月3日（文化の日）、上県町産業祭「やまねこまつり」の催し物の一環として、環境庁・長崎県の主催で「ツシマヤマネコを語る集い」が、「そば道場」研修室で開催されました。環境庁・林野庁・長崎県・上県町・鹿児島大学・琉球大学・福岡市動物園・ツシマヤマネコを守る会などがそれぞれ取り組んでいるヤマネコの保護活動や調査結果を報告し、その後、参加者を交えて意見交換や議論を行いました。　一般の参加者も多く関係機関や報道機関とあわせて約100名もの参加がありました。意見交換では「重要な生息地や事故多発地帯にスクールゾーンのようなヤマネコゾーンを設定してはどうか」、また「センターでモニター公開しているウィルス感染ヤマネコの飼育ケージは小さすぎて少し窮屈ではないか」等といった意見が積極的に飛び出し、参加者のヤマネコに対する関心の高さがうかがえました。「集い」の中で出された意見は、今後のセンターの活動の参考にさせていただきたいと思います。これからも皆で力を合わせてヤマネコにとっても人間にとっても住みよい環境作りのために頑張っていきたいという思いを再認識した催しでした。

傷病保護された ツシマヤマネコ山に帰る

11月10日21：50上県郡峰町吉田の国道382号線上で若いオスのツシマヤマネコが保護収容されました。このMy-08と名付けられたヤマネコは、外傷等は認められなかったものの全長約64cmに対し体重約1.7kgと大変に痩せて衰弱しており、初めの3日程はまっすぐ歩くことさえできない状態でした。再びもとの生息地で生きていけることを目標に、獣医さんや様々な方々の協力を得て、対馬野生生物保護センターにおいて治療と野生復帰訓練を行った結果、1ヶ月後には体重も約2.1kgまで増え、生きた動物を自力で捕らえ食べることができるまでに回復しました。そこで再び野生に帰すために12月14日18：43峰町吉田近くの林道のそばで放しました。

My-08にはその後の行動状況を調べるために超小型電波発信機（今後も成長しそうな若い個体だったので短期間で脱落するようにしました）を装着し、放逐直後から現在もセンター職員が追跡調査を続けています。1月中旬現在、峰町賀佐（かさ）～吉田周辺で活動しており、自動撮影で

も元気な姿が確認されています（2ページ左下写真）。

ツシマヤマネコは山だけに住んでいると思われがちですが、実際は人間の生活域で行動することも多く、車がビュンビュン走っている道路の近くでも活動しています。前号でもお伝えしたヤマネコのロードキル（交通事故）死体発見地点も「えっ！あの道で？」と思うような場所がたくさんあります。ヤマネコを山に放してそれで終わりというわけにはいきません。今後My-08が事故にあって再び収容されたりすることがないよう、野生の状態で無事くらしていけるように、車の運転やイヌの放し飼いには充分気をつける等といった皆様のご協力をお願いいたします。

収容されたツシマヤマネコ ウィルスに感染か？

⬆ウィルスに感染している可能性のあるMt-09

2000年12月20日朝、上県郡上県町佐護友谷の民家で鶏小屋のニワトリをノラネコから守るために仕掛けられたはこわなでツシマヤマネコが捕獲されているのが発見され、同日8:00に当センターに保護収容されました。このMt-09と名付けられたヤマネコはオスの成獣で、全長は約82cm、体重は約3.8kg。住民の方の話では、現場はノラネコの多い地域で、3日前から連夜ニワトリを捕られていたとのことです。これらももしかするとMt-09の仕業だったのかも知れません。

センターではツシマヤマネコを捕獲したり死体を収容したりした場合は、個体の健全性を把握するために専門の検査機関に血液を送って健康状態やウィルス感染について検査してもらっています。Mt-09は検査の結果、猫コロナウィルス類（FCoV）の抗体価が少し高いことが判明しました。FCoVに感染した場合、ウィルスの種類によっては猫伝染性腹膜炎（FIP）という致死率の高い病気を引き起こす可能性があります。また感染個体に直接接触しなくてもフン尿を介して間接的に感染することがあるため、フンや尿をマーキングに使うことのあるヤマネコにとっては、非常に怖ろしい病気であるといえます。FCoVに感染した可能性のあるツシマヤマネコの確認例は、人工繁殖のために1996年12月に上対馬町で捕獲されたオス（この個体はイエネコ由来の猫免疫不全ウィルスにも感染しており、現在センターで隔離飼育中。展示室モニターで観察できます。）に次いで2例目です。

Mt-09は今のところFIPに特徴的な症状はみられず、またFCoV感染についてはまだ確定的ではないため再検査が必要ですが、この個体は他の猫特有のウィルスにも感染している可能性があります。これらのウィルス感染がツシマヤマネコ野生個体群に拡がった場合には、種の絶滅の引き金となる可能性があることから、再検査による確定的な結果が得られるまではセンターの検疫隔離飼育施設で隔離飼育することになりました。

Mt-09が生活していたと考えられる生息地には、ノラネコはもちろんツシマヤマネコでもこれらのウィルスに感染している個体が生息している可能性があります。対馬野生生物保護センターでは緊急にこれらの感染状況を把握するとともに、ノラネコ（イエネコ）由来のウィルスがツシマヤマネコに感染拡散することを防ぐ具体的な手だてについて皆さんとともに考えていきたいと思っています。

<T2・Ask>

沖縄にある「やんばる野生生物保護センター」に勤務されている澤志泰正さん（環境省やんばる自然保護官）と2000年11月にゆっくり会う機会があり、お互いにセンターの情報交換をしました。その際に聞いた話をやんばる野生生物保護センターの紹介という形でとりまとめてみました。写真も送ってもらいました。ありがとうございます。　<T2>

やんばる野生生物保護センターの紹介

★やんばる野生生物保護センター正面

「昨日まで台風災害で土砂が駐車場に流れ込み悲惨な状況でした。」

■やんばるとは

沖縄というと亜熱帯の島、青い海を想像する人が多いことと思います。亜熱帯の「森」をイメージする人はあまりいないことでしょう。やんばるには地球上でも狭い範囲に限定された亜熱帯の森があります。

やんばるとは漢字で「山原」、沖縄島北部の山がちな地域を指します。やんばるの範囲は人によってとらえ方が様々で、中部のリゾート地として有名な恩納村以北という人もあれば、名護市以北、それに国頭村・大宜味村・東村の３村だけだという人もいます。琉球王朝時代の琉歌や方言、歴史的な植生などを考慮すると恩納村以北は間違いなくやんばるということになります。しかし現在、やんばるの希少野生生物を代表するノグチゲラ、ヤンバルクイナ、ヤンバルテナガコガネの３種のやんばる地域固有種が生息する地域となると国頭村・大宜味村・東村の３村とかなり限定された地域になります。

この３種のうち、ノグチゲラは100年ほど前には名護市の山中で目撃されていますし、ヤンバルクイナはヒナの化石が沖縄島南部の地層から発見されています。現在は奄美大島にしかいないルリカケスや、オオトラツグミと考えられる大型のツグミの化石も南部の地層から発見されているので、大昔のやんばる（あるいは奄美）的環境は奄美大島から沖縄島までの琉球列島中部の島々に広がっていたのに、人間活動によって縮小してきたことが分かります。

現在の最もやんばるらしいやんばる（国頭村・大宜味村・東村）は、多種多様な生物が狭い範囲で生息している地域ですが、同時に様々な人間活動も営まれている地域でもあり、多種多様な生物を保護しながらも地域内外の住民の利活用も促進する必要もあるという微妙な地域です。

さて、多種多様な生物が生息すると一言に書いてしまいましたが、対馬や『とらやまの森第10号』で紹介されている奄美と同様、大陸や日本列島と古い時代に分離しそこで独自に進化した固有種、他地域では絶滅し見られなくなった遺存種、それに北限種や南限種が混在しています。しかし、いったいどのくらいの種類の生物がすんでいるかというとほとんど分かっていない状況です。

たとえばミミズ。2000年には日本最大のミミズ２種が新種記載されましたが、研究者によるとやんばるでこれまでに50種以上のミミズを確認したものの日本本土と共通するものはなかったといいます。大陸のものをよく調べなければいけないそうですが、少なくとも全て日本新記録

であり、琉球列島と大陸との分離年代が古いことを考えると、将来その中の多くが新種となる可能性が高いのではないでしょうか。土壌動物や昆虫にはまだまだ未記載の種が存在することは間違いありません。

一方、代表的な種の生態についてはどうかというと、これも多くの動植物でよく分かっていない状況です。ヤンバルクイナやノグチゲラの行動圏もヤンバルテナガコガネの餌として有効な菌類の種類の情報もまだ不足しているのです。

このようなやんばるにすむ野生生物を保護するには、その生息環境を保全するのはもちろんのこと、基礎的な研究を推進しどのように保護を進めていくのが効果的か知る必要がありますし、それらのデータを研究者の間で知るだけでなく地域内外の人にも分かりやすく解説し、やんばるの自然の豊かさを間近に感じてもらう必要があります。そこで、1999年4月29日（みどりの日）にやんばる野生生物保護センターはオープンし、活動が始まりました。

■やんばる野生生物保護センターの活動

（1）希少な野生生物の保護と研究の推進

やんばるに生息する動植物の中で、種の保存法（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）の国内希少野生動植物種に指定されているのは、鳥類4種（ノグチゲラ、ヤンバルクイナ、ホントウアカヒゲ、アマミヤマシギ）と昆虫1種（ヤンバルテナガコガネ）の合計5種です。

その中でツシマヤマネコと同じく保護増殖事業計画が策定されているのは、ノグチゲラとヤンバルテナガコガネの2種です。

このうちノグチゲラは1998年から保護増殖事業に着手し、その一環として異なる色の組み合わせの足環を取り付け、個体識別ができるようにしました。この2年間で約50羽に足環が施されています。これらの行動を長期間にわたって調べ、繁殖期、非繁殖期の行動圏や若鳥が移動・分散する範囲を明らかにし、ノグチゲラの生息をより安定させ、繁殖の継続をより確実にできる方策を探っていきたいと考えています。

一方、ヤンバルテナガコガネはまだ保護増殖事業には着手していません。しかし、1998年に1個体、1999年に1個体の合計2個体がセンターに運び込まれました。どちらの個体も外灯に飛来したもので、他の甲虫の発生時期と重なるためマニアや業者による乱獲を避けるための保護を行いました。1個体目は以前から知られていた巣となるウロのある木に放虫しました。そして、このウロ内部の環境についてデータロガーを設置して長期間にわたって気温と湿度を測定しようと考えていたのですが、その後何者かによってウロが荒らされてしまいました。そこで2個体目はより奥山の一般の人が進入できない場所に放虫しましたが、生息環境調査のめどはたっていません。密猟対策として、発生時期にやんばるの民宿や学校にポスターを掲示してもらい一般の人による注意を喚起しています。

センター来館者から頂いた生きもの情報はコンピューターに全て入力し、位置情報等を整理し、保護上確認位置をお知らせしない方がよいものを除いて来館者に情報を還元しています。今後はこの情報を元にどのような保護策を取れるか検討していきたいと思います。たとえば、ヤンバルクイナとリュウキュウヤマガメの目撃情報はそれぞれ68件と38件です。その中には路上轢死も含まれており、データを収集分析することで事故を未然に防ぐことができるようになるかも知れません。

また研究室内には－85℃のディープフリーザーが完備しており、希少種などの死亡個体（の試料）が届けられた時には、庫内に整理して収納しています。これは新鮮な死亡個体であれば、姿が剥製にならないくらいぐちゃぐちゃに崩れていても、アイソザイムやＤＮＡなどの分析に供することが可能だからです。死亡個体から得られる遺伝情報が生存する個体や種を保護するための資料になり得るため、ストックを続けています。

このようにやんばる野生生物保護センターが、やんばるの野生生物についての一般の来館者と研究者のデータやり取りの拠点になるように努力していきたいと思います。

（２）普及啓発

やんばる野生生物保護センター展示室は、対馬と同じく「生きもの掲示板」のコーナー、「ライブラリー＆フェノロジーサロン」、「多目的ホール」、そしてメイン展示の「やんばるの水系をたどる旅」があります。ライブラリー＆フェノロジーサロンには、1000冊を超える自然や環境関連の書籍、やんばるの四季と人々の暮らしの関係の一端を見るフェノロジーカレンダーの施されたテーブル、そしてコンピューターで生きもの情報検索ができます。多目的ホールはやんばるの写真展示、講演会開催、やんばるの自然と人々の暮らしについての番組を提供しています。やんばるの水系をたどる旅では、イノー（礁池）から川沿いに浜、集落、中流、上流、森の中へ、それぞれの環境における生きものや人との関わりについて垣間見ることができ、やんばるの森へ続きます。森ではある仕掛けが用意されていますが、それは来館されるまでの秘密にしておきましょう。

★東恩納由美子（ひがしおんなゆみこ）さん（やんばる野生生物保護センター、やんばる自然体験活動協議会）による保育園児へのお話。↓

「腹話術によるヤンバルクイナのクイちゃんとの競演。」

センター展示室の来館者は年間１～２万人。学校単位での利用も多く、遠足や地域学習の一環として、また県外からの修学旅行による利用もされています。またセンターが集落に隣接しているため、子どもだけが来館することも多く見られます。自然観察会や講演会、子どもパークレンジャーなどの関連行事も行っており、「遊び庭（アシビナー：中庭）」では、地域の人達が主催したフォークコンサートも開かれました。

■おわりに

やんばるでは地域内の開発行為のほか、マングースやミナミイシガメなど様々な移入種が存在し、捨て猫や捨て犬、ゴミなど深刻な悩みとなりつつあります。それらが個々の希少種や生態系に及ぼす影響が心配されています。また広大な米軍基地の存在などやんばるだけでなく日本全体で考えるべき問題もあります。

やんばる野生生物保護センターは、やんばるの特異な自然について知る場としてだけでなく、この地域と他地域（とくに訪れた人の住む場所）との関係を知る手がかりになってもらえるよう、そしてそのことによってより深くやんばるについて考えていただけるような場になりたいと考えています。

ヤンバルクイナ

対馬の動物シリーズ　◆その11◆

ツシマジカ

【*Cervus nippon pulchellus*】
【偶蹄目シカ科シカ属】

「フィーヨーォ、フィーヨーォ」昨年上県町では、9月20日に初めて、オスジカのラットコールが聞こえた。ラットコールとは、交尾期にオスジカが大きな声で鳴くもので、その声は1キロ先まで届くらしい。人々にその姿や声がめでられることもあるシカであるが、ここ対馬では、せっかく植林した木を食べたり、角をこすりつけたり、田畑に被害を与える「害獣」のイメージが強い。

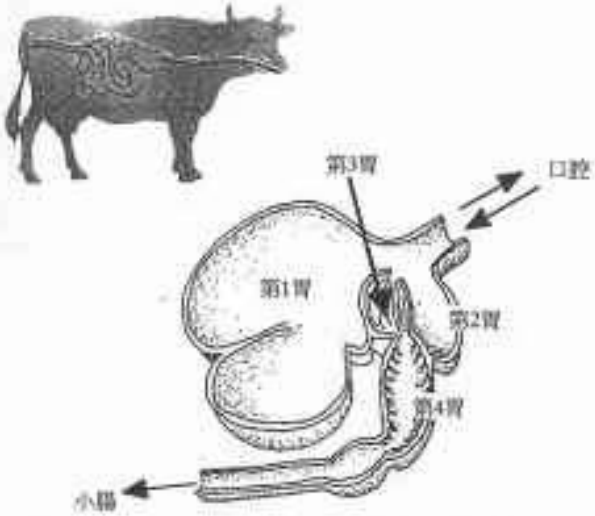
峰町木坂シカ牧場にて

ニホンジカは、ベトナムから中国東部、台湾、日本、沿海州に分布する［中国名は夏毛の白い斑点から『梅花鹿（メイファールー）』］。主な生息環境は、温帯林の林縁部、およびその周辺の疎林や草地で、体重はオスが40～100kg、メスが20～60kg程度である。オスにだけ枝分かれした角があり、この角は毎年生え替わる。日本にすむニホンジカは、さらに亜種に分類され、九州地方には、キュウシュウジカ、マゲシカ、ヤクシカが生息する。ツシマジカは1970年にニホンジカとは別種として報告されたが、別種といえる程の差異があるのかと疑問を持つ意見もある。

まずは、そんなシカの生理ということで「反芻（はんすう）」、そして生態ということで「繁殖と仔育て」について紹介する。

■シカの反芻（はんすう）

シカは、牛と同じように、四つの胃を持ち、「吐き戻し、噛み返し（＝反芻）」をする。第1胃は一番大きな袋で、その壁を縦横に柱のように支えているのが、焼き肉用語で言う「ミノ（筋柱）」である。第2胃のことは「ハチの巣」、第3胃は「センマイ」、第4胃は「ギアラ」と呼ばれている（イメージできました？）。4つの胃のうち、人間の胃のように消化液をだすのは、第4胃だけで、第1から第3胃は、細菌、原生動物、真菌などの微生物が住む発酵タンクになっている。動物が反芻して多量の唾液を飲むのは、発酵中に酸度が高まった内容物を中和し、微生物が住みやすい環境にするためである。また、反芻によ



＜参考＞ウシの第1胃から第4胃
オルビス　学習科学図鑑　動物より

り植物をかみ砕いて、微生物が消化・発酵しやすくしているという意味もある。反芻は、「胃の中の微生物に対する動物からのサービス」といえるのだが、そこまでサービスするのには理由がある。シカが食べた植物の約80%は、発酵により細菌や原生動物の体に変わるのだが、これらは動物の肉のタンパク質と同じ様な栄養価値を持っている。つまり、シカは見かけ上は草や木を食べているように見えるが、実際には、植物は微生物の餌で、シカが本当に"食べる"のは、微生物の発酵産物（有機酸）と微生物体なのである。シカは、このような仕組みによって、人間が栄養源にしづらい草や木の繊維を主食にして十分なエネルギーを得ている。座って口をモグモグさせて反芻中のシカの首を見ていると、時々、ピンポン玉大の塊が上がっていくのが見られる。峰町木坂にあるシカ牧場に行ったときなど、ゆっくり観察してみてはどうだろう。

■繁殖と子育て

シカは、秋に交尾をし、約220日の妊娠期間を経て、翌春に1頭の仔を産む。メスジカは1才から妊娠可能となる。0才を除いたツシマジカの妊娠率（1997年度有害鳥獣個体）は、94.2%で、1才以降、寿命が来るまで、ほとんど毎年、仔を産んでいることになる。94.2%という妊娠率は他の地域、例えばちょっと古いが兵庫県のシカで83.0%（1990年）、大分県で90.2%（1997年）と比べても高い。シカ類の初産年齢や妊娠率は栄養状態に関係することが分かっているので、ツシマジカの栄養状態はかなり良いと考えられる。

データはこのくらいにして、シカの子育てを少し紹介する。かつて、対馬から遠く離れた神奈川県丹沢の塔ノ岳（標高1491m）で人馴れしたメスジカに調査のためついて歩いて（シカストーカー）いたことがある。このシカが仔を産んだのだが、仔は授乳時以外、草むらに座り込んでいた。授乳後、仔はしばらく親について歩き、促されるわけではなく自分から座り込んでしまい、親の方は何もなかったように、食べながら歩いていってしまう。しかし、親は、仔が座った場所を覚えているようで、数時間後に、仔が座った場所に一直線に向かい、「ブーブーブー」と言うような声を出し、仔を呼び寄せ授乳を行っていた。このような行動は生後1ヶ月程観察されたが、その後この仔は死んでしまったのか姿が見えなくなってしまったので、いつまでこういった行動をするのかは分からなかった。隠れている仔ジカを「親とはぐれていて弱っている」と勘違いして、人間が誘拐してきてしまうことがあるが、親は仔の居場所が分かっているので、そっと放っておくのが良いと思う。

親と離れ草むらに残る仔ジカ

■棹崎周辺のシカ

対馬は、農林業被害が特に多かったということで、北海道、岩手県、兵庫県の各地域と共に、47年ぶりで1994年度からメスジカが狩猟可能になった。（1947年以降メスジカは狩猟禁止だった。）平成11年度は、オスとメス合計で2348頭（狩猟＋有害鳥獣駆除）が捕られた。さらに平成12年度猟期から、これまで狩猟は「一日１頭まで」に制限されていたのが、「１日あたりオスジカ１頭とメスジカ１頭の計２頭、またはメスジカ２頭まで」と緩和された。シカは一夫多妻型で、ハーレムを形成する繁殖生態であるため、オスの数が減ってもメスを減らさないと次世代の出生数は減少しない。メスを重点的に捕ることにより、個体数を確実に調整しようという考え方に基づくものである。

シカに剥がれた樹皮

島内全域を考えれば、まだ生息密度が高い地域が多いと思うが、上県町の対馬野生生物保護センター（棹崎）周辺に限れば、数年前には糞があった場所にも、今年は糞や痕跡はないし、姿もほとんど見られない。平成11年度の有害鳥獣駆除により、棹崎周辺では、棹崎で24頭、佐護で338頭、中山で96頭のシカが捕られた（平成12年度ツシマジカ対策協議会資料）。棹崎周辺の生息密度は捕獲により減少したと言えるだろう。

対馬だけでなく、全国各地でシカの数が増えて、農林業被害が増えていることや、自然植生が影響を受けていることを、テレビや新聞の報道などでご存じの方もいらっしゃると思う。有史以来、日本の森林に針葉樹（スギ・ヒノキ）が現在のように大規模に植林されたのは昭和30年代の拡大造林政策以降のことである。ちょっと前まで、対馬の森林は、薪炭林として、あるいは木庭作として、本来そこに生えている樹種を変えないで利用されてきたのではないだろうか？　シカの数を減らすだけで、農林業被害がなくなり、自然植生がもと通りになって、問題が解決するのかについては、よく分からない部分もある。もとの形と違ってきている森林に生息するシカと、つきあっていく方法を、これからも探っていく必要があると考えている。

※シカの反芻の部分は、「朝日新聞社　動物たちの地球55シカ・ブロンダホーンほか」の中の宮崎大学小野寺良次先生による「動物を食べる草食獣」を参考にさせていただきました。

<MIT>

フィールドノートから
～ツシマヤマネコの自動撮影について～

野生動物の生息状況を調査する方法は対象動物や目的によって様々であるが、その中に直接観察法というのがある。その調査は読んで字のごとく対象を直接観察する方法で、種や個体を知る上では最も確実かつ有効な手段であり、動物をナマで観察できるという満足感もある。しかしながら、かなりの体力と忍耐が必要であり、対象動物の生態や生息環境によっては不可能な場合もある。そこで自動撮影調査が登場してくるのだが、それは観察者の代わりにカメラという見張りを立てて、動物に与える影響を最小限にしながら少ない労力で終日観察出来るというメリットがあり、近年の映像撮影機器の発達によって幅広く取り入れられている調査方法である。

三脚方式の自動撮影装置

「こんなのはあんまり写って欲しくないです」（三脚方式）

当センターでツシマヤマネコのモニタリングのために行っている自動撮影調査の装置には、三脚方式とボックス方式の２つがある。三脚方式は、三脚にカメラとセンサーを取り付けてそのまま野外の調査ポイントに設置する。その前を通ってセンサーに反応するもの（ヤマネコ・テン・イタチ・シカ・ネズミ・イノシシ・ウシ・鳥類・人間・クルマなど）を幅広く撮影することが出来るため、そこを利用する種の調査やヤマネコの生息分布域の把握のために利用している。ボックス方式は、自作のアクリル箱の中にカメラをセットして、箱に入ってきたヤマネコのクローズアップを撮影することにより、ヤマネコの個体識別（額の縦縞の紋様等を見る）をしながら個体の状態の確認を容易にするものだ。

自動撮影調査をする上で最初にやらなくてはならないことはカメラ等の改造である。この改造は、市販のフルオートコンパクト防水カメラと熱感知式のセンサー（よく玄関先などにある人が通ると体温を感知して明かりがつく仕組みのもの）を配線でつないで、センサーが反応するとシャッターがレリーズする仕組みにするというような細かい作業だ。1台ン万円もするカメラやセンサーをバラしたり穴を開けたりするため注意深くやらないといけないし、壊さないように完璧な防水を施してやることも忘れてはならない。しかし、最近カメラの調子が悪くなることが多い。やはり野ざらしはきつい。メーカーが専用コネクターを備えた壊れないのを作ってくれたら、売れると思うんだがなぁ。

ボックス方式の自動撮影装置

次に野外にカメラを設置するポイントを選ぶわけだが、適当に置いてもヤマネコが写るわけはなく、やはり事前に下調べをした上で痕跡（フン・足跡・食痕）がある場所とか、痕跡はなくても頻繁に利用してそうな場所（獣道があったり、水飲み場があるようなところや食物となる小動物が多そうなところ）に置くのが望ましい。

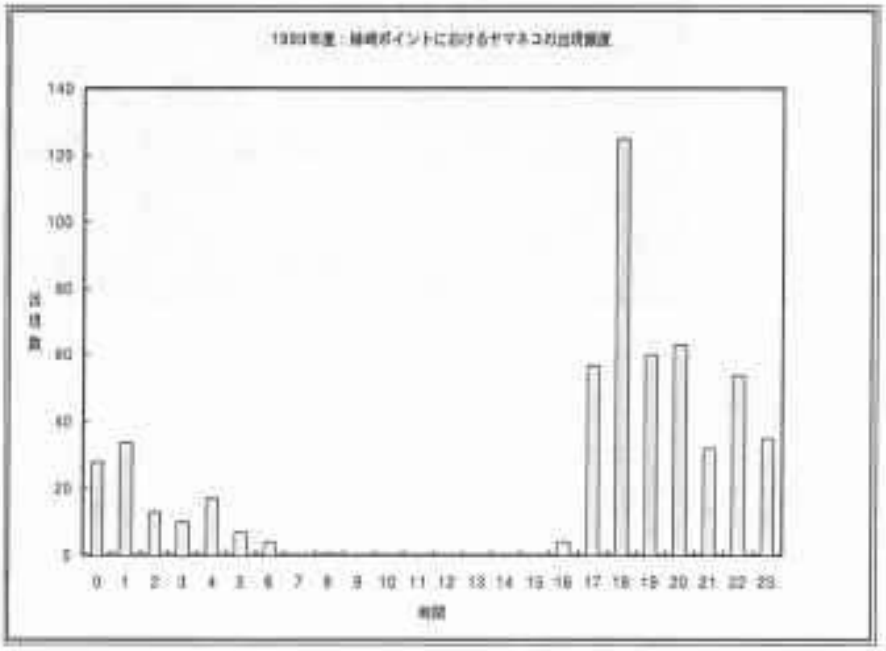
ボックス方式で撮影された別個体です。皆さん、顔の模様の違いで識別できますか？

あとはどうやって装置まで誘引するかだが、基本的には対象動物が興味を持つ「におい」が有効だと思う。誘引のために「餌付け」することは、動物本来の行動を変える等の悪い結果を引き起こす可能性があるため慎重を要するところだ。エサを使う場合はそれだけに依存することのないように量を調整するなどして、出来るだけ自然状態を損なわないように配慮しなくてはならない。

現在、長崎県が中心となって自動撮影調査によるツシマヤマネコのモニタリングを対馬全島27ポイント（上島：20ポイント、下島：7ポイント）で行っているが、上島の上対馬町・上県町・峰町・豊玉町では今年度もヤマネコが写っていて生息分布が確認されている。しかし、下島の厳原町・美津島町では努力の甲斐なく未だに写真では確認されていない状況である。フンなどの痕跡はあるのだから、何とかして写真で確実な生息の確認をしたいものだ。さらに当センターの近くの山中にもセンター開所以来自動撮影装置を設置しているが、ここでは頻繁にヤマネコが現れており、前号までで紹介したテレメトリー調査の結果と併せることによって、繁殖の状況等かなり詳細な生態学的データが集積されてきている。

最近のカメラの小型高機能化、センサーのハイコストパフォーマンス化により、自動撮影装置も進んできているが、防水デジタルカメラの利用によるフィルムの廃止と撮影枚数の増加など、もっといい装置ができないものかと考える日々である。よいアイディアがあれば是非アドバイスいただきたい。

<Mk・T2>



←自動撮影調査では、動物がやってきた時刻も記録されるので、それらのデータを整理すると、動物の活動時間帯が明らかになってきます。

このヤマネコは、夕方から明け方にかけて活動が活発になり、午後6時台に調査ポイントによく訪れることがわかります。

対馬出身の教員、國分英俊さんよりご寄稿いただきました。植物がご専門で、現在は上対馬町立豊小中学校の校長先生をされています。ちょっと季節外れではありますが、対馬を代表する花の話です。

対馬が唯一の産地
オウゴンオニユリについて

國分　英俊（上対馬町立豊小中学校）

6月下旬から、対馬の野山、道路のふちにオニユリの花を見かけるようになる。8月上旬まで全島は朱赤色のオニユリに彩られる。

オニユリは食料として中国から入ってきたと伝えられているが、それは種子の出来ない3倍体の個体（珠芽－ムカゴ－で増える）である。日本本土にみられるオニユリはすべてこの3倍体の個体ばかりで、種子のできる2倍体のものはない。何らかの理由で3倍体となったものが日本に入ってきたと考えられる。

対馬のオニユリは、調査によると2倍体のものが約85%、3倍体のものが約15%と2倍体の個体数が多く、3倍体のものが少ない。このことから対馬に生えているオニユリのほとんどはムカゴとともに種子で繁殖する。このように、2倍体のものが多いこと、人為的に持ち込む理由のない無人島にも多いことから、対馬のオニユリは海外から持ち込まれたものではなく、もとから自生していたと考えている研究者もいる。

オニユリに種子ができる対馬では、突然変異でできたと思われる覆輪オニユリ、斑点のないオニユリ、黄色のオニユリ等が発見されている。特に黄色のオニユリはオウゴンオニユリと命名され、発見地において大切に栽培が続けられている。

美しく咲きほこるオウゴンオニユリの花
（斑点のある中央の2輪）

オウゴンオニユリが文献に見えるのは、日本園芸雑誌（1922）に対馬の武本毅氏が発表しているのが最初である。その後、植物研究雑誌（1933）に牧野富太郎氏が発表している。

このオウゴンオニユリはユリの育種家には早くから知られていた。地元では、あまり知られておらず、わずかの方々、発見地の上県町女連の人々によって細々と株が維持されてきた。

オウゴンオニユリが知られるようになったのは、厳原の故岡部虎男氏の努力によることが大きい。昭和42（1967）年、オウゴンオニユリの存在を知った岡部氏は調査を開始し、発見地女連でも自生のものはないこと、過去数回発生し採集されていること、現在も細々ながら栽培されていること、厳原でも5軒の家庭で栽培されていることをつきとめ、貴重性と品種が絶える事を懸念し同年、「黄金鬼百合について」というパンフレットをつくって、女連、久原に配布し保護を訴えた。その後、大阪学院大学の野田昭三氏による染色体の研究により、オウゴンオニユリには2系統あり、いずれも上県町の女連産であることが判明している。

岡部氏は調査を続け、牧野富太郎氏の発表のものは中尾信吉氏が昭和6～7（1931～32）年壱上県町の女連で発見したものであることを中尾氏の家族との面会で確認した。また、昭和52（1977）年の調査の時、女連で最初にオウゴンオニユリが発見されたのは百数十年前であることを聞き取り調査によって確認している。また、最後に野生のオウゴンオニユリが確認されたのは、昭和24（1949）年女連のサナデで鍾田氏が発見したものであることもつきとめている。

さらに、大発見は、昭和52（1977）年上対馬町でもオウゴンオニユリの自生地を確認したことである。この自生地の発見は岡部氏の執念が実ったものである。昭和46（1971）年9月、対馬町村会の事務室で、当時上対馬町議会議長の梅野貞者氏が、上対馬町にオウゴンオニユリがあると話しているのを、事務局長であった松原隆夫氏が聞き、岡部氏に知らせたことがきっかけとなる。岡部氏は昭和47（1972）年7月、上県町教育委員会に連絡をとり、現地の確認をお願いした。同年7月15日に職員の方が確認に行き、まだ開花していないものを見つけたとの連絡を受けた。17日に再度開花の確認に行ったところすべて堀取られていたとの報告を受け、愕然としたとのことであった。岡部氏はあきらめきれず、ムカゴが成長して開花すると思われる5年後の昭和52（1977）年7月29日、現福岡市在住の由井正紀氏とともに自生地に行き、開花しているオウゴンオニユリを発見した。撮影された写真は、「原色日本のユリ」にも掲載されている。また、そのとき採集した4個のムカゴより増殖した株が、数人の方により大切に保存されている。

現在、上対馬町の自生地では細々ではあるが2本の開花株を見ることができる。世界で唯一のオウゴンオニユリの自生地であるが、生えている場所の状況が悪いこと、株が年々小さくなっていること等から、いつ絶滅してもおかしくない状態でもある。（了）

野生動物のニワトリ小屋への被害防止について

最近、ツシマヤマネコ等の野生動物が民家の鶏舎（ニワトリ小屋）に入り込んでニワトリを襲う話をときどき耳にします。3ページでもお知らせした保護収容されたヤマネコの例もそうでした。対馬には野生の食肉類としてツシマヤマネコ以外にツシマテンやチョウセンイタチがいますし、ノラネコやノライヌが鶏舎を狙うこともあるでしょう。對馬(つしまと)誌（1929）には、ツシマヤマネコは「人家近くに出て鶏舎を襲うことあり、害獣少なき本島にては恐むべき獣類の第一なり」と書かれており、実際にはかなり昔からよく起こっていたことなのかも知れません。しかし、鶏舎に餌付いてしまうことは、ニワトリを飼っている方にとっては損害になりますし、野生動物にとっても本来の生態から考えると異常なことといえます。

希少な野生動物が生息する地域において、それらの食物となりうるニワトリ等への被害を防ぎながら共生するためには、動物側の駆除を考えるのではなく、人間の方が知恵を絞り手間をかけて、食害の防止対策を施すことを考えた方が良いのではないでしょうか。

＜野生動物による鶏舎等の被害を防くために＞

（1）木箱に古い漁網をかぶせただけのようなニワトリ小屋では無防備です。小屋を金網やブロックで補強をするだけでかなり効果があります。

（2）イヌを番犬として鶏舎付近につなぐことで野生動物の接近を防げます。ただし、イヌの放し飼いは効果がありませんし、条例違反になります。

食害防止効果の高い鶏舎の設計については、センターに資料がありますので、関心のある方はお問い合せ下さい。　<T2>

～対馬で季節の訪れを告げるもの～　初春　梅

風雪に耐え一番先に花を咲かせる「ウメ」。通勤の途中で見かける「梅の木」も小さなつぼみをつけ始め、花を咲かせる時期になりました。対馬では、ウメは裏山や民家の庭などで栽培され、満開の頃には塀の上から枝をのぞかせ、ほのかな香りで道行く人々を楽しませてくれます。今回は、そんなウメを紹介したいと思います。

↑ウメの実（左上写真）とウメの花（上写真）
日本の樹木（山と渓谷社）より

「ウメ」 *Prunus mume*＜梅＞

サクラ属〔落葉小高木～高木〕

一般には、庭や畑で栽培されますが、時に暖地で野生化しているものもあります。花は1月下旬～3月、葉に先だって咲き、通常白色ですが、紅白、淡紅白の物もあります。雄しべは多数で花弁より短く雌しべは一個。子房には密毛があります。果実は直径2～3cmのほぼ球形で表面に密毛が生え、片側に浅い溝があります。6月頃、黄色に熟し、果肉は酸味の強い味がします。核はやや扁平な楕円形で、核面にはたくさん穴があります。果実は梅干や梅酒にする他、仁は薬用に使われます。中でも梅干は、古くから①食べ物の毒②血の毒③水の毒の「三毒」を断つと言い伝えられ、現在では、五大効能として、①血液浄化②活力増進③殺菌効果④老化防止⑤疲労回復があると言われています。梅干を作る季節は初夏であり、その作り方にもその地方独特のやり方があると思いますが、今回は対馬で私達がやっている作り方を書いてみようと思います。

用意する物。ウメの実（黄色から少し赤くなったもので、甘酸っぱい桃の様な香りのするものを選ぶのがポイント。）ウメを入れる容器（瀬戸物でも良いのですが蓋を開けて中を確認する際カビの胞子が入るのが心配なので、開けなくても中を確認できるガラスびんが良いと思います）、ボウル、塩(量は梅に対して8%～12%)、焼酎（甲種）。

①まずウメを、12時間程真水に浸けておきます。

②次に容器と塩を用意。容器と蓋を洗い熱湯をまんべんなくかけて殺菌します。乾燥させた後、焼酎で拭いてしっかり消毒します。これが梅干をカビさせないこつの様です。

③ボウルに焼酎をたらし（カビ防止です）、一握りの塩をいれます。そこにへたを取ったウメを数個ずついれ、よく混ぜ合わせて表面にまんべんなく塩がつくようにします。

④ウメを容器の底に手早く一段並べ、その上に塩をまき二段目をのせます。塩とウメを交互に積んでゆき全部積み終わったら残った塩をまき、蓋をして仕込み完了。風通しの良い涼しい場所に4週間～6週間程置いておきましょう。2～3日で梅酢があがってきますので上の方の梅にも梅酢がかかるように時々ビンをゆすって下さい。

⑤いよいよウメを干します。夏の2日～3日間天気の安定しそうな日を選びましょう。きれいに洗ったザルに漬けておいたウメを1個づつ干していきます。ウメがザルにくっつき形がくずれる事がありますので2時間～3時間程たったらウメの裏表をひっくり返しましょう。

⑧2～3日ウメを干したら色つけです。まずきれいに洗った赤シソの葉を用意し、塩でもんで絞り灰汁を捨てます。次にウメを漬けていた「梅酢」をシソにかけながら何度か絞ります。出た汁を梅がかくれるぐらいまで入れ、上からシソをのせましょう。漬けたウメが赤く染まれば梅干のできあがりです。

さてうまくできたでしょうか、楽しみです。　　<AB>

福岡市動物園のツシマヤマネコ情報コーナー

福岡市動物園では、ツシマヤマネコ保護増殖事業の一環として飼育下において個体数の増加を目指す人工繁殖事業を実施中です。とらやまの森9号で「飼育下におけるツシマヤマネコの繁殖について」というタイトルで同園ツシマヤマネコ飼育員の高田さんから詳しく報告していただきましたように、昨年4月に待望の2世が1頭（No.9 メス）誕生したことは、ツシマヤマネコの「種の保存」にとって大きなニュースでした。9～10号で昨年9月まで順調に成長しているNo.9の様子が報告されていますので、今回は高田さんと同園動物病院の今田先生から伺った9月以降の飼育状況をお知らせします。

9月になって、同居していた母ネコ（No.8）の残り餌をNo.9が食べるようになったため、与える餌の量を増やした。しかし、母ネコが大部分を食べてしまうようになった。運動場でも母仔が離れて行動するようになったため、親別れの時期であると考え、分けて飼育することにした。

9月18日　　生後154日（5ヶ月）目。体重2,350 g。
　　No.8とNo.9を別々の獣舎に分けて、別居させる。

10月入ると、身体は大きくなって一見成獣（おとな）のように見える。しかし、巣箱の中に入れてあった乾草を引き出して遊んだりといった、親では見られない行動が認められる。

10月1日　　巣箱から乾草を引き出す。
10月2日　　巣箱から乾草を引き出す。運動場の切り株の樹皮を剥がす。
　　枯れ枝で遊んだのか寝室内へも枝を運びこむ。
10月3日　　巣箱から乾草を引き出す。コナラの枝が散らかっている。
10月13日　　巣箱から乾草を引き出す。
10月16日　　生後約6ヶ月目。体重2,500 g。

11月以降も、身体は順調に成長し、行動も発達してきている。

11月8日　　巣箱から乾草を引き出す。運動場の草と戯れる。
11月17日　　生後約7ヶ月目。体重2,840 g。

その他

10月17日　　九州地区獣医三学会で日本産ヤマネコのシンポジウムが開催される（福岡）。
12月5～7日　第48回動物園技術者研究会で高田さんが「ツシマヤマネコの飼育と繁殖について」発表。
育児期間中の給餌量についてや発情時期の見極めをどうやったのかなどの活発な質問も出て、他の動物園関係者にとっても関心が高いことが分かった。

現在は、次の繁殖を目指して今年のペアリングについて検討しているところ。早くNo.9も繁殖できるようになって、3世の誕生に結びつければと願っている。

今後も、福岡市動物園で飼育しているツシマヤマネコの様子について新たな情報があれば、本誌でお知らせしていきます。　　<T2>

対馬野生生物保護センターからのお知らせ

- 休館日 -

通常は月曜日が休館日ですが、月曜日が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また、臨時休館することもありますので、その都度ご確認下さい。

1／1～3・9・15・22・29
2／5・13・19・26
3／5・12・19・26

「とらやまの森」第12号は2001年4月上旬発行の予定です。

《定期購読について》

季刊『とらやまの森』は年に4回発行しています。センターのカウンターからご自由にお持ち帰りいただいていますが、定期購読をご希望の方には郵送もしています。詳細は対馬野生生物保護センターまでお問い合わせ下さい（電話09208-4-5577）。またバックナンバーについても同様に受け付けています。

《募集》

◆原稿を募集中！

採用された方に、もれなく『特製メモホルダー』をプレゼントします。どしどしご投稿下さい。ご意見・ご感想もお待ちしています。

◆みんなの写真館作品募集中！

皆さんからお寄せいただいた写真を展示室内に展示しています。引き続き募集を受け付けておりますので、あなたのお気に入りの、とっておきの1枚をお送り下さい。お待ちしています。

編・集・後・記

★相変わらず「かすまき」にはまっている。とうとう島外の友人2名をかすまきファンにしてしまった。よく行くお店から最近新製品が出た。これもメチャうま。この勢いでヤマネコかすまきとか出らんかなぁ。　<Ask>

◇

♥2000年ロードキルで死んだヤマネコ6頭残念です。2001年はロードキルなどないよう心から祈ります。　<AB>

◇

♣ヤマネコの保護収容→放逐→テレメ→保護収容と続いてふと気がついたら21世紀が来ていた。　<Mk>

◇

◆年末、帰省したときに、人工波のプールでボディボードをやってみました。練習したら、ちょっと波を滑れるようになりました。この夏、対馬で出来るかな？　いい波のポイント知りませんか？　<MIT>

◇

♠前号の「棹崎公園から見える異国-韓国-」の「月別見えた日数データ」のグラフに対して、これまでで最大の反響を頂いた。関心が高かった割には資料がなかったわけだ。新たにセンターの玄関に「今日は見えます」の表示を掲げることにしたので、観光・散策の参考にして欲しい。見えるかどうか、毎日チェックするのもかなり大変なのだが。　<T2>

ニュースレター「季刊とらやまの森」は自由にコピーして周りの方々にもお配り下さい。ただし記事を引用される場合には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

季刊

とらやまの森

発行 対馬野生生物保護センター
〒817-1605　長崎県上県郡上県町棹崎公園
環境省自然環境局 対馬自然保護官事務所内
Phone：09208-4-5577
Facs.：09208-4-5578
E-mail：BR-TSUSHIMA@env.go.jp

上県町佐護平野に飛来したマナヅルの群

3月3日には230羽もの大群
（うち1羽ソデグロヅル）でした。

来館記念のスタンプを押そう！

玄関ホールのカウンターにある対馬野生生物保護センター来館記念スタンプ。
ここに押してね。

3月上旬、冬の終わりを告げるように、ツル達が北を目指してセンター上空を飛んでいきました。今、棹崎公園ではノイチゴのかれんな白い花があちらこちらにのぞいています。5月頃にはその真っ赤な実に小鳥やテン達が舌鼓を打つでしょう。

季刊「とらやまの森」も4回目の春を迎えました。第1号の発行が98年5月ですから今年3歳になるわけです。これからも、ヤマネコ情報を中心に、よりわかりやすく読みやすく、対馬の自然について紹介していこうと、スタッフ一同張り切っています。これからもご意見ご感想等どしどしお願いいたします。

福岡市動物園提供

ベイビー誕生に期待大！

福岡市動物園で保護増殖のために飼育されているツシマヤマネコ6頭（オス3頭、メス3頭）のうち二組のペアで2月中旬と3月初旬に交尾行動が確認されました。妊娠していればそれぞれ4月中旬と5月初旬に出産する見通しです。昨年に続き、元気な仔ネコが無事産まれることを祈ります。（左写真は交尾行動が確認されたメスの内の一頭。　）

（Ask）

[とらやま]とは
対馬ではツシマヤマネコ・ツシマテン・チョウセンイタチなど山に棲む中型獣をまとめて「やまねこ」と呼んできたそうです。そしてツシマヤマネコのことは虎毛のやまねこという意味で「とらやま」と呼んで区別してきたとか。昔から親しまれてきたこの「とらやま」が暮らす森がいつまでも残るように、という気持ちを込めて、私たちのニュースレターに「とらやまの森」と名づけました。

対馬野生生物保護センターの活動から

ショック！　ツシマヤマネコ２例目のFIV（ネコ免疫不全ウィルス）感染

昨年末12月20日に上県町佐護の鶏小屋にて保護されたMt-09の検査結果が出そろいました。結果はFCoV抗体価は陰性でしたが残念な事にFIV陽性でした。

FIVウィルスに感染しても、すぐにエイズの症状が出るわけではありません。数年かそれ以上の「無症状キャリア期」ののち、発病の初期段階には、慢性の口内炎、鼻かぜ症状、皮膚病、下痢、発熱などがみられます。エイズ期（発病）になると、これらの症状が重く、全身状態が悪くなり、死亡することがあります。

↑FIV陽性だったMt-09

獣医さんの診察の結果、現在Mt-09に発病の兆候はなく、展示室モニターで公開中の個体（96-002）と同じ、「無症状キャリア期」の状態にあると考えられます。FIVに感染しても、ストレスの少ない生活をさせて発病を遅らせたり、また、発病してしまっても、薬を使ってなるべく楽な生活を送らせることはできます。

現在、FIVに対するワクチンは開発されておらず、さらに、いちど感染すると、FIVウィルスが体の外に出ることはありません。環境省の調査で、対馬のイエネコの24％がFIVに感染していることがわかりました。FIVウィルスは、唾液中に排出され、噬噛などによる噛み傷から感染します（FIVは、人間にはうつりません。）。イエネコからツシマヤマネコに、FIVなどの伝染病を感染させないために、対馬では特に、ネコの飼い方に配慮していただくように、お願いいたします。

◎ネコを野山に捨てない。（どうしても飼えないときは保健所に相談して下さい）
◎ノラネコの数を増やさないため、ノラネコに餌を与えない。

センターでモニター公開中のツシマヤマネコを健康診断。

この個体（96-002）は、96年12月5日に、人工繁殖（現在も福岡市動物園で行われています。昨年4月にはメスの赤ちゃんが誕生しました。）の為に捕獲されましたが、その後、FIV等に感染していることが明らかになり、隔離飼育することになりました。捕獲当時すでに成獣であったことから、現在は、6才以上と推定され、歯のすり減り具合を見ても、老年期に入っていると考えられます。そこで、96-002の、健康診断を行うことにしました。3月12日

に、獣医さんが麻酔をかけ、体重測定、診察、採血が行われました。FIV発病の兆候はなく、血液検査の結果も、血糖値、肝機能、腎機能など、異常ありませんでした。最近、飼育ケージを少しでも居ごこちよくするためにワラを入れてみたところ、気に入ったのか、昼間はよくワラの上で寝ている様です。

注）この個体に感染したFIVウィルスのDNAを調べたところ、九州地方のイエネコに感染しているFIVと同じタイプのもので、イエネコから感染したと考えられます。

昨年12月14日放逐のツシマヤマネコ山で元気に生活

前号で保護収容後、超小型電波発信機を装着して放逐したツシマヤマネコ（My-08：注）をご紹介しましたが、その後をお知らせします。

My-08は、この個体のなわばりに含まれていたと考えられる峰町吉田近くの林道で、昨年12月14日に放逐されました。My-08はしばらく放逐地点周辺にいた後、西南西へ約3ｋｍ離れた賀佐集落周辺、白岳方面へと移動。この頃、移動を続けているので、センター職員は、「山で餌を捕って自活できているのだろう」と一安心していました。ところが、対馬に数十年ぶりに大雪が降った1月13日の後のこと、ある養鶏場周辺数百ｍ範囲に居着いてしまいました。養鶏場のご主人は、ヤマネコが近くに来ていることを喜んで下さっていました。しかし、My-08が鶏を襲う可能性は充分にあり、それは養鶏場にとっても、自分の力で生きて行かなくてはならないMy-08にとっても良いことではありません。

そこでセンターではMy-08を捕獲し現場から放逐地点に移動させる事にしました。が、My-08は警戒心が強く、なかなかワナでは捕まりませんでした。そこで作戦を変更し、養鶏場にヤマネコが侵入できないよう外壁の補修を行いました。補修して1週間後、My-08は、あきらめがついたのか養鶏場から約1ｋｍほど離れた地点にいるのが確認されましたが、その3日後には、また養鶏場周辺に戻ってきました。その後、3月1日には養鶏場から3ｋｍ以上離れている地点にいましたが、再び戻ってきてしまいました。しかし、養鶏場を離れている期間や距離が徐々に伸び、4月8日、養鶏場の近くの藪で発信器だけが落ちているのが発見されました。

この個体は、保護当時成獣ではなく、放逐後に体が成長すると考えられたので、首が締まらないように発信器の首輪は、短期間で脱落する仕組みにしていました。現在も元気に暮らしていてくれることと思います。

（注）11号の「傷病保護されたツシマヤマネコ山に帰る」。この個体は、昨年の11月10日に上県町吉田の国道382号上で衰弱していることを保護、収容されました。

〈MIT〉

あなたのニワトリは 狙われている！！

ツシマテン（冬毛）

ツシマヤマネコ

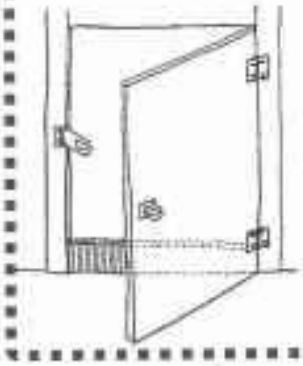
チョウセンイタチ

写真：（平凡社　日本動物大百科より）

対馬にはツシマヤマネコ、ツシマテン、チョウセンイタチといった肉食の獣が生息しています。ヤマネコは「人家近くに出て鶏舎を襲うことあり。害獣少なき本島にありて悪むべき獣類の第一なり」と対馬島誌（1928）に記されていることから昔からニワトリを襲うことが度々あったと思われます。近年はテンやイタチに鶏舎を襲われるケースが多く、その対策として住民が仕掛けたトラバサミワナなどで動物が命を落とす事もあると聞いています。1999年5月には実際にツシマヤマネコ1頭がトラバサミワナが原因で死亡する事故がありました。これらの肉食獣達と我々人間が共存していくために鶏舎の被害対策法として、いくつかのことを提案したいと思います。

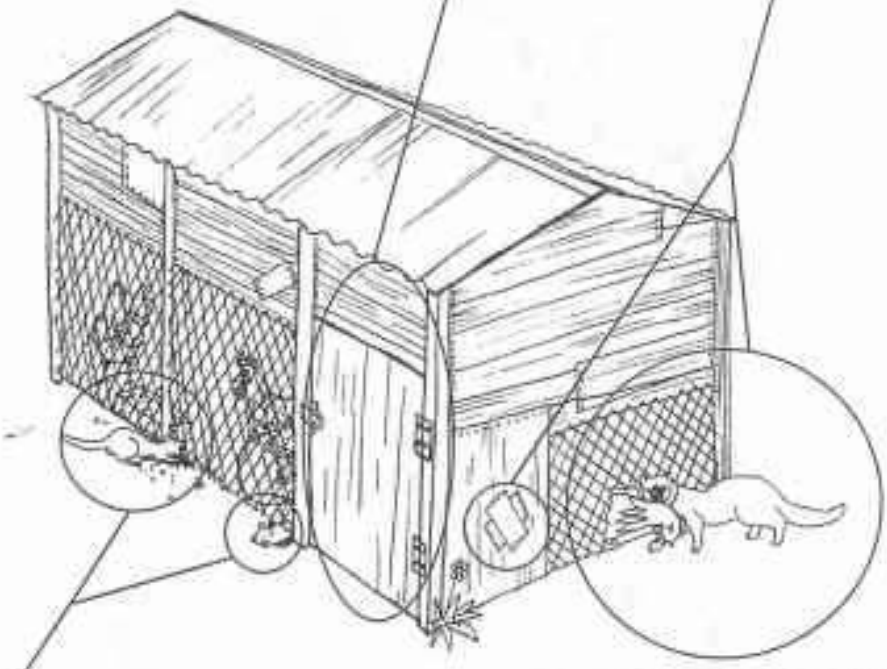
補強のポイント

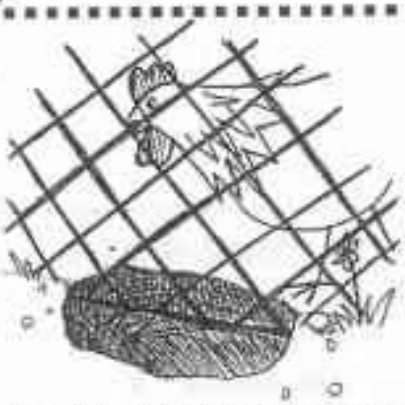
①入口の戸は、蝶番（ちょうつがい）などを利用してガタツキのないしっかりとしたものにする。
②上部の屋根とフェンス・壁との境のすき間をなくす。
③フェンスには亜鉛製やビニールコーティングされた丈夫な金網を使用する。
④フェンスは地中に30cm以上埋め込む。（鶏舎にはニワトリのエサを目当てにドブネズミなどが穴を掘って侵入するためその穴を利用してテンやイタチも入ってくる。したがって、フェンスを埋め込んだからといって安心は出来ない。）
⑤屋根や壁などを一枚板で作れないときは、板を重ね合わせるなどし隙間をなくす。
⑥新築の場合（新築でなくても）できれば基礎工事（コンクリートなどで）を行う。
⑦犬を鶏舎の周りにつないで番をさせる。犬を恐れて野生動物が近づいて来る事ができない。（飼い主の義務として犬はきちんとつないで飼いましょう！）



・鍵番や鍵をつける
・内側の下部には板を張り下からの侵入を防ぐ

・板や網のめくれ、穴、すき間などは完全にふさぐ
・網は目の細かいものを使用する





・イタチやテンは自分で穴を掘って侵入してくる。　又、ドブネズミなどの掘った穴を利用して入ってくることがあるため網は地中深く埋め込む
・コンクリートで基礎工事をして掘ることが出来なくするのが望ましい

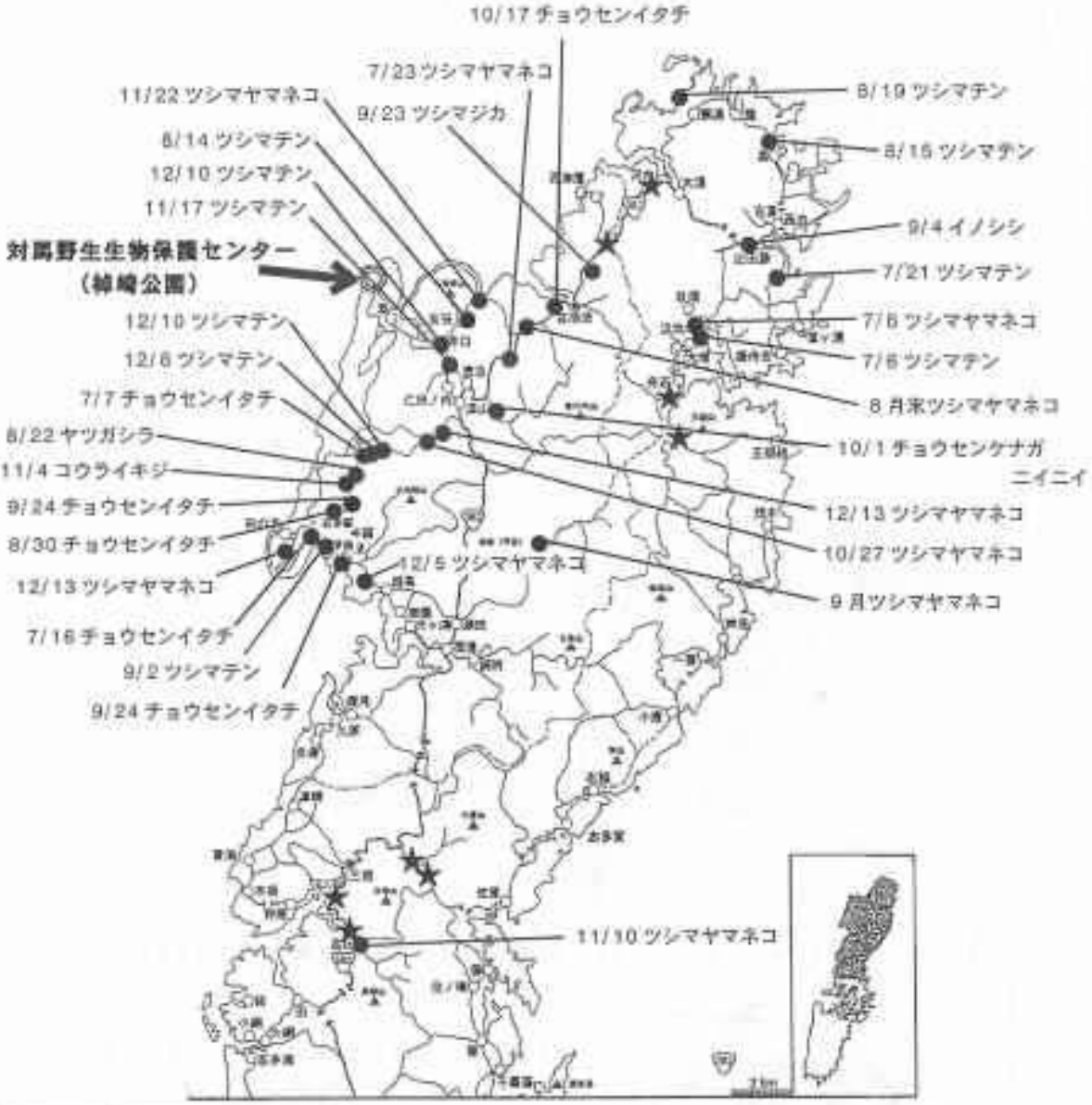
3ページの峰町の養鶏場では外壁の補修によりヤマネコの侵入を防ぐことが出来ました。被害に困っている方、補修の方法に悩んでいる方は対馬野生生物保護センター（☎09208-4-5577）までご相談下さい。

<Mk>

野生生物の生息情報

《2000年後半：7月～12月》

対馬野生生物保護センターでは、ツシマヤマネコだけでなく野生生物全般の生息情報を集めています。皆様から頂いた情報を地図にまとめました。



棹崎公園周辺（棹崎公園～浜）での目撃情報

9/24　ハヤブサ
10/16・11/22　トラフズク
7/9・11・8/14・9/1（2件）・21・10/2・11/18・12/3　ツシマテン（計9件）
9/29　コウライキジ
10/11　ミヤマガラス
　　コクマルガラス
11/20　チョウゲンボウ
10/12　アトリ大群
11/20　ハイタカ

黄色の標識です。

標識設置のお知らせ

環境省と長崎県がヤマネコの交通事故防止のために上県郡内8ヶ所に標識を設置しました。設置場所は実際に事故の起きた所やヤマネコがよく出没する所です。上の地図上に★で示してあります。ここを通行する時は充分な注意をお願いします。（AB・Ask）

対馬野生生物保護センターの自然保護官である鑪雅哉が4月1日付で西表野生生物保護センターへ転勤になり新しく東京から山本麻衣が対馬自然保護官として着任しました。

人の動き

季刊「とらやまの森」創刊号以来のスタッフだった（T2）こと鑪　雅哉です。1997年4月からの4年間を環境庁（省）対馬自然保護官として対馬野生生物保護センターで過ごしてきましたが、このたび西表自然保護官として西表野生生物保護センターに勤務することになり、全員対馬生まれの家族とともに2001年4月初めに西表島に引っ越してきました。

学生時代に初めて対馬の地を踏んでから、早16年が経過しました。人生の大きな節目になるような出来事は、全て対馬で迎えたと言っても過言ではありません。その間に対馬の自然環境や社会環境は大きく変化し、そのなかでヤマネコなどの野生生物保護のために努力をしてきましたが、何をなし得たのか分かりません。しかし、対馬野生生物保護センターの創設第一期生として4年間を過ごせたことは、私にとって大きな喜びであり誇りでもあります。対馬を離れることになってしまったのは個人的には大変に残念ですが、こちら西表ではイリオモテヤマネコの仕事に携わっていけるので、両種の保護の状況を見比べたり、両センターの良い部分を受け渡ししたりしながら、日本の貴重なヤマネコの明るい未来のために努力していきたいと思います。

年4回発行の「とらやまの森」も第12号を迎え、全ての月で発行する（つまり3年間は継続する）という創刊当初の最低限の目標をまずはクリアしました。この小さなニュースレターが今後も対馬の野生生物サポーターの皆さんの意見交換や情報提供の場として、末永く続いていくことを心から祈ります。また読者の皆様には引き続き「とらやまの森」と対馬野生生物保護センターを応援して下さいますよう、お願いいたします。

上県町をはじめとする対馬の住民の方々、ツシマヤマネコ保護関係の方々、またこの「とらやまの森」の読者の方々には、公私にわたり大変お世話になりました。最後になりましたが、これまで支えていただいた皆様に心より感謝し、この場を借りて御礼申し上げます。本当にどうもありがとうございました。（T2）

●●

鑪さんの後任として、環境省の対馬自然保護官となりました山本麻衣です。対馬に来るのは今回が初めて、ツシマヤマネコに会うのももちろん初めてです。島に来てからの1週間は、幸いにも晴れの日が続いて、春満開という感じ。桜やツバキ、ゲンカイツツジが、毎日の通勤中の目を楽しませてくれています。こんな豊かな自然の中でこれから暮らせると思うと、自然と顔もほころびます。

対馬のすばらしいところは、人間活動と豊かな自然が、長い歴史の中で共存していることだと感じています。どうすればずっとヤマネコと共に暮らすことができるのか、みなさんと一緒に考え、考えるだけでなく行動をしていきたいと思います。

何年も対馬で研究をしていた鑪さんと比べると、対馬の動植物についての知識が少ないので、みなさんも不安ではないかと思います。私も少々不安です。そこでみなさんにお願いです。頼りない自然保護官を育てると思って、島の自然のこと、文化のこと、生活のこと、何でも教えて下さい。よろしくお願いいたします。（YAM）

対馬野生生物保護センターからのお知らせ

- 休館日 -

通常は月曜日が休館日ですが、月曜日が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また、臨時休館することもありますので、その都度ご確認下さい。

4／2・9・16・23
5／1・7・14・21・28
6／4・11・18・25

「とらやまの森」第12号は2001年7月上旬発行の予定です。

《定期購読について》

季刊『とらやまの森』は年に4回発行しています。センターのカウンターからご自由にお持ち帰りいただいていますが、定期購読をご希望の方には郵送もしています。詳細は対馬野生生物保護センターまでお問い合わせ下さい（電話09208-4-5577）。またバックナンバーについても同様に受け付けています。

外国語版 パンフレット完成！

センターには海外からの来館者も多く、特にお隣の国、韓国からは年間約1600人もの利用があります。そこで、海外の方にも楽しんで頂けるように英語版とハングル版のパンフレットを新たに作成しました。センターのカウンターに置いてありますので英語ではツシマヤマネコってどう書くのかな？と手にとってみてはいかがでしょうか。

編・集・後・記

★満開の桜と月の写真を撮ろうと夜中に出かけてみました。車を道脇にとめてライトを消したら、外灯もないのに明るくてビックリ。ヤマネコ達はこんな明るい世界で活動しているんだなぁ。 <Ask>

◇

♥桜の花が散ってしまいます。今年こそはと思っていた花見に行けず残念です。来年こそは！ <AB>

◇

♣27年間生きてきて始めて花粉症らしきものにかかってしまいました。これから春が来るのが怖いです。 <Mk>

◇

♦春になって、光の量が増えるのにしたがって、海がどんどんきれいになるのを見ると、夏には、どこまできれいになるんだろうと思います。 <MIT>

◇

●対馬の道はカーブが多くておっかない。道路脇の花にも気をとられるし・・・。 <YAM>

◇

♠この時期はさわやかな南風が頬を撫でていくのは対馬も西表も同じだ。「うるずん」を迎えた西表から、最後の編集後記です。今度からヒラクチじゃなくてハブに気をつけなくちゃ。 <T2>

ニュースレター「季刊とらやまの森」は自由にコピーして周りの方々にもお配り下さい。ただし記事を引用される場合には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

季刊
とらやまの森
発行　対馬野生生物保護センター

連絡先
〒817-1605
長崎県上県郡上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター
Phone：09208-4-5577
Facs.：09208-4-5578
E-mail：BR-TSUSHIMA@env.go.jp

より身近に親しみやすく　～回覧板で各家庭へお届けします～

対馬野生生物保護センターのニュースレターとして、98年よりお届けしている「とらやまの森」ですが、今号より各家庭へも回覧していただくことになりました。ヤマネコや当センターをより身近に感じていただくために、内容も親しみやすい内容にしていきたいと思っています。本紙やセンターへのご意見、ご要望など、どしどしお寄せください。

初めてご覧になる方は、なぜ「とらやまの森」なのかとお思いになりませんか。対馬では、古くからツシマヤマネコのことを、虎毛のヤマネコという意味で「とらやま」と呼んでいたそうです。昔から親しまれてきた「とらやま」が暮らす森がいつまでも残るように、という気持ちを込めて、私たちのニュースレターを「とらやまの森」と名づけています。

福岡市動物園でツシマヤマネコの赤ちゃん誕生！！

福岡市動物園で保護増殖事業のために飼育中の、ツシマヤマネコ（オス3頭、メス3頭）の内1頭が4月16日2頭の仔ネコを生みました。途中仔ネコが1頭だけになってしまうというアクシデントもありましたが、残った仔ネコは元気にすくすくと育っている様です。

子猫の成長記録

4/16　2頭の仔ネコ誕生！

4/18　観察用カメラに仔ネコが1頭しかうつらなくなる。（動物は生まれた子供が死んだ場合、親が食べてしまう事がある為、今回も母ネコが食べたのではないかと考えられています。）

5/22　昼間母ネコが仔ネコを巣箱の外へ連れ出す。仔ネコは元気に母ネコにじゃれついていた。

5/29　体重750ｇ

6/11　ネコの伝染病の予防注射を打つ。体重900ｇ、性別はメスとわかる。

生後42日目の仔ネコ　写真提供福岡市動物園

今回出産した母ネコは昨年4/17にメスの仔ネコを1頭生んでいます。昨年の仔ネコと今年の仔ネコは姉妹という事になります。

このヤマネコ達は野生に近い状態で飼育されているので、私たちが直接見ることはできません。（飼育係さんも姿を見る事はめったにないそうです。）でも、対馬野生生物保護センターで仔ネコのかわいいカラー写真や成長記録を展示しています。ぜひ見に来て下さい。

ゴールデンウィークやまねこアンケート

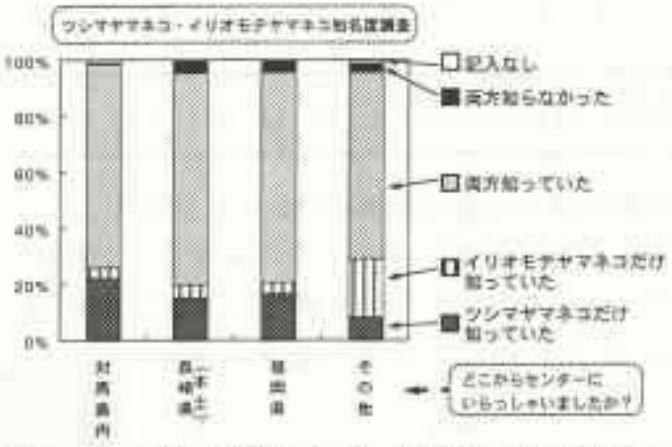
日本に2種類生息するヤマネコ、ツシマヤマネコとイリオモテヤマネコについて、4/29～5/6にセンターにいらした方にアンケート調査を行いました。

アンケートには、対馬の島内の方198名、長崎県（本土）の方65名、福岡県の方96名、その他の地域からいらした方143名の合計502名の方に協力していただきました。どうもありがとうございました。

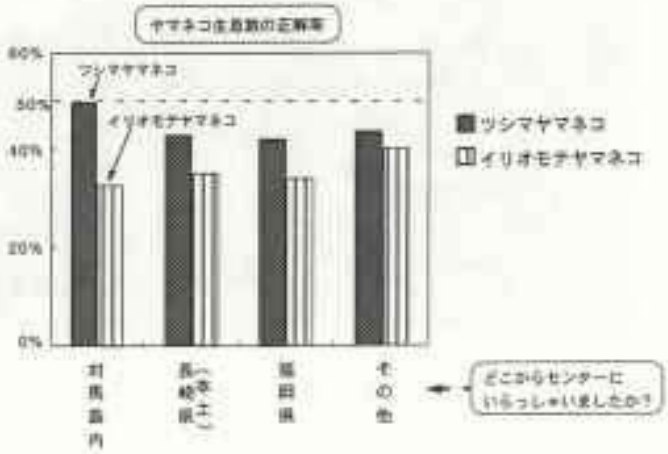
主な質問項目は
1．どこからいらっしゃいましたか？
2．対馬に来島前に知っていたヤマネコは何ですか？
3．それぞれ何頭ぐらい生息していると思いますか？
（こちらで作った選択肢から回答を選んでいただきました。）

まず、ツシマヤマネコと沖縄県西表島（いりおもて）に生息するイリオモテヤマネコの知名度を地域別に比較してみました（右の図）。

いずれの地域も半数以上の方が(66.4%～75.4%)、両方のヤマネコについて知っていました。ツシマヤマネコだけ知っている人は、対馬島内、長崎県、福岡県で多く、イリオモテヤマネコだけ知っている人は、それ以外の地域からいらした人に多かったです。



次に、ツシマヤマネコとイリオモテヤマネコの生息数を用意した選択肢から選んでいただいて、正解率について比較してみました。対馬島内の方は、ツシマヤマネコの推定生息数について、半数の方が正しく把握されていました（下の図）。



ツシマヤマネコの推定生息数は、
７０～９０頭（1997年度調査）。
イリオモテヤマネコの推定生息数は、
約100頭です。

数十年前まで、対馬全島に生息していたツシマヤマネコですが、ここ数年、厳原町と美津島町で、確実なヤマネコの生息情報がありません。
また、昨年1年間で6頭のツシマヤマネコが交通事故により死亡しました。
７０～９０頭と推定された1997年より、現在の状況は悪くなっているかもしれません。

ゴールデンウィークやまねこアンケート

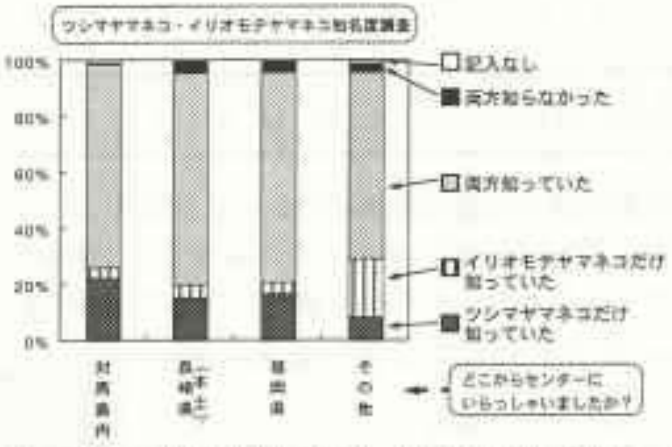
日本に2種類生息するヤマネコ、ツシマヤマネコとイリオモテヤマネコについて、4/29～5/6にセンターにいらした方にアンケート調査を行いました。

アンケートには、対馬の島内の方198名、長崎県（本土）の方65名、福岡県の方96名、その他の地域からいらした方143名の合計502名の方に協力していただきました。どうもありがとうございました。

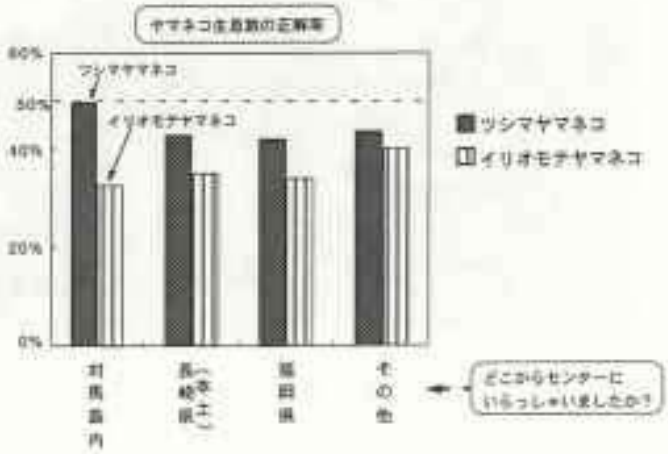
主な質問項目は
1．どこからいらっしゃいましたか？
2．対馬に来島前に知っていたヤマネコは何ですか？
3．それぞれ何頭ぐらい生息していると思いますか？
（こちらで作った選択肢から回答を選んでいただきました。）

まず、ツシマヤマネコと沖縄県西表島（いりおもて）に生息するイリオモテヤマネコの知名度を地域別に比較してみました（右の図）。

いずれの地域も半数以上の方が(66.4%～75.4%)、両方のヤマネコについて知っていました。ツシマヤマネコだけ知っている人は、対馬島内、長崎県、福岡県で多く、イリオモテヤマネコだけ知っている人は、それ以外の地域からいらした人に多かったです。



次に、ツシマヤマネコとイリオモテヤマネコの生息数を用意した選択肢から選んでいただいて、正解率について比較してみました。対馬島内の方は、ツシマヤマネコの推定生息数について、半数の方が正しく把握されていました（下の図）。



ツシマヤマネコの推定生息数は、
７０～９０頭（1997年度調査）。
イリオモテヤマネコの推定生息数は、
約100頭です。

数十年前まで、対馬全島に生息していたツシマヤマネコですが、ここ数年、厳原町と美津島町で、確実なヤマネコの生息情報がありません。
また、昨年1年間で6頭のツシマヤマネコが交通事故により死亡しました。
７０～９０頭と推定された1997年より、現在の状況は悪くなっているかもしれません。

センターで飼育中のヤマネコ日記

現在、対馬野生生物保護センターではツシマヤマネコを2頭飼育している。そのうちの1頭は、飼育下で繁殖させるために、1996年12月5日に上対馬町で捕獲したオスのヤマネコ（No.2）である。しかし、No.2を検査したところ、FIV（ネコ免疫不全ウィルス感染症、通称猫エイズ）等のウイルス病に感染していたので、繁殖させることをとりやめ、しばらく鹿児島大学に入院していた。1998年10月、センターの隔離飼育施設（外に病原菌を持ち出さないための施設）の完成とともに1年と10ヶ月ぶりに対馬に帰ってきて、今日まで発症*することなく元気に生活している。（*FIVに感染したからといっても、すぐに発症するとは限らず、死ぬまで発症しないこともある。FIVが人にうつることはない。）

展示室のモニターで公開中（No.2）

Mt-09

もう1頭は、2000年12月20日の早朝、上県町の民家でニワトリをノラネコから守るために仕掛けられた箱ワナに掛かってしまったオスのツシマヤマネコである。検査の結果、このヤマネコ（Mt-09）もFIVに感染していることがわかったため、センターで飼育することになった。ちなみにこのヤマネコも現在までFIVの症状はでていない。

（次号につづく）

対馬野生生物保護センターからのお知らせ

- 休館日 -

通常は月曜日が休館日ですが、月曜日が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また、臨時休館することもありますので、その都度ご確認下さい。

7/2・9・16・23・30
8/6・13・20・27
9/3・10・17・25

《定期購読について》

季刊『とらやまの森』は年に4回発行しています。センターのカウンターからご自由にお持ち帰りいただいていますが、定期購読をご希望の方には郵送もしています。詳細は対馬野生生物保護センターまでお問い合わせ下さい（電話09208-4-5577）。またバックナンバーについても同様に受け付けています。

第14号は10月上旬発行の予定です。

「とらやまの森」は自由にコピーして周りの方々にもお配り下さい。ただし記事を引用される場合には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

ツシマヤマネコとイエネコの見分け方

「ヤマネコと私の家のミーコちゃんとどう違うの？」そう思っている方は多いのではないでしょうか。ヤマネコの大きさはイエネコとあまり変わらないし、「こんな山の中に？」という様な所にもノラネコがいる事があります、「山に住んでるネコ＝ヤマネコ」とは限りません。

ツシマヤマネコは、日本で対馬にしかいない貴重な生き物です。ヤマネコとイエネコを見分ける方法をおぼえましょう。

ツシマヤマネコ

顔

↑ツシマヤマネコ

まず顔。イエネコにはヤマネコに似た模様のネコもいます。どこが違うのでしょう？実は**おでこのシマ模様**が違います。

ヤマネコのシマ模様は目の上から頭の方へまっすぐ伸びています。キジトラのネコはアルファベットのMの字のようにシマ同士がつながっています。

↑キジトラのネコ

次は、これ！確実な特徴は耳のうしろです。
ヤマネコの耳のうしろは真っ黒で、そこに**はっきりとした白い大きな斑点**があります。この斑点は「**虎耳状斑**（こじじょうはん）」と呼ばれるもので、トラやベンガルヤマネコ、イリオモテヤマネコなどにもあります。

イエネコには、この「虎耳状斑」はありません。ヤマネコかイエネコか迷ったときは、耳のうしろを見てみましょう！

耳のうしろ

しっぽ

ヤマネコの大きさはイエネコとあまり変わりませんが**しっぽが長くて太く**、体型は「**胴長短足**」に見えます。

もし、以上のような特徴をもった生き物をみたらヤマネコかもしれません。見かけた場合はぜひ対馬野生生物保護センター（09208-4-5577）までご連絡をお願いします。

季刊 とらやまの森
発行　対馬野生生物保護センター

連絡先
〒817-1605
長崎県上県郡上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター
電話：09208-4-5577
ﾌｧｯｸｽ：09208-4-5578
E-mail:RO-TSUSHIMA@env.go.jp

ヤマネコ交通死亡事故ゼロ一年達成！！

9月21日から27日まで各警察署や交通安全協会により、秋の交通安全運動の呼び掛けが島内各地で行われました。対馬野生生物保護センター職員も参加し、ヤマネコの着ぐるみを着てヤマネコの交通事故防止を呼びかけました。昨年のヤマネコの交通事故死体発見数は、過去最悪の6件を記録しましたが、2000年9月28日を最後に2001年10月13日現在まで発見されていません。このまま、事故ゼロ記録が続くよう、皆で安全運転をこころがけていきたいですね。

死体発見…そして仔ネコ捜索

センター近くで発信機を装着した個体（Fs-07：1999年11月13日に装着）が、残念ながら7月7日に死体で発見されてしまいました。センター職員は、発信機が出す電波によって、毎日この個体の居場所を確認していたのですが、しばらく同じ場所から動いていなかったため近くを捜索したところ、死んでいるのがわかったものです。

死因解明のため、大学に送り調べてもらいましたが、死体が腐敗しており、はっきりしたことはわかりませんでした。

Fs-07は、今年4月20日に出産したと考えられていました。そうだとすると、この時仔ネコは生まれて78日だったので、まだ自分で餌を取れないかもしれません。センターや県支庁の職員などで、山中の捜索、定点観察（仔ネコが出てきそうなところでジッと観察）、餌をおいて自動撮影装置の設置をして、必死で探しました。

そして、死体発見の次の夜（7月8日）、仔ネコのビデオ撮影ができました。その後も、自動撮影装置に何度も写り、元気でいることや自分でも餌が取れていることが確認されたので、一安心して捜索は終了しました。

今ごろは、立派なヤマネコとして大きく成長していることでしょう。

7月14日夜8時頃。自動撮影カメラに写った仔ネコ（板に引いた線の間隔は10cm）

野生生物の生息情報　＜2001年前半：1月～6月＞

対馬野生生物保護センターでは、ツシマヤマネコだけでなく野生生物全般の生息情報を集めています。今月号は、皆様から寄せられたヤマネコ以外の野生生物の目撃情報をまとめました。

ご協力ありがとうございました。これからも、野生の生き物を見つけたら対馬野生生物保護センターまで情報をお寄せ下さい。

ツシマヤマネコに病気をうつさないために

猫は正しく飼いましょう

1996年と2000年に各1頭のツシマヤマネコが猫の伝染病であるFIV(猫免疫不全ウィルス。通称、「猫エイズ」)に感染していることが確認されました。FIVは、ケンカによる噛み傷から感染する病気で、ツシマヤマネコは猫（飼い猫・ノラ猫）から感染したと考えられています。FIVは、人には感染しません。

ツシマヤマネコに、これ以上感染を広げないために、以下にご注意くださるよう、よろしくお願い致します。

1．かわいい猫だからこそ、安全な室内で飼育してください

- 猫の伝染病は、猫同士のケンカや接触などにより感染するので、外に出しているといつ感染してもおかしくありません。外に出さないようにすれば、飼い猫が病気をもらう心配は、ほとんどありません。また、交通事故にあうこともありません。
- 病気に感染していると、その猫に症状がでるだけではなく、他の猫やツシマヤマネコにも感染させてしまうかもしれません。

石山寺縁起絵巻（1324～28年）より
中世・近世（鎌倉時代～江戸時代）はネコをつないで飼っていました。

- 猫は単独行動をとり狭い範囲でなわばりをつくる動物なので、小さいときからその空間で育ててやればストレスを感じることはなく、広い生活空間を必要としません。

2．ノラ猫を増やさないようにしてください

- 責任を持って飼えない猫には、餌を与えないようにしましょう。
- 生ゴミにノラ猫が餌付かないように、処理法に気をつけてください。
- ノラ猫は自由に生活しているように見えますが、事故・病気など生活はきびしく、飼育されている猫より寿命が短いです。

猫のFIVって？

感染してすぐに発症するわけではありませんが、いちど感染すると完全に治ることはありません。発症すると、痩せて全身状態が悪くなって死亡することもあります。発症していなくても他の猫やヤマネコに感染させる可能性があります。現在、FIVを予防するワクチンは、ありません。

※FIV：猫免疫不全ウィルス、通称、「猫エイズ」

対馬の猫のFIV感染率はどれくらい？

対馬の猫（飼い猫とノラ猫）を検査した結果、FIVに感染していたのは、24%でした。全国平均（3.6-12.4%）と比べて、対馬の感染率は、高いと言えます。

※ツシマヤマネコの感染率は5%（のべ47頭検査して2頭感染）です。（2001年10月現在）

センターで飼育中のツシマヤマネコ日記

今回は飼育中のヤマネコ2頭の一日を紹介します。

朝：巣箱の中や上で、丸くなって眠っています。時々起きますが、ほとんどの時間を眠って過ごします。午後3時くらいになると起きだし、歩き回ったり爪をといだりしている様子が見られます。

夕方：閉館後、係が掃除やエサやりをします。2頭のヤマネコの性格はそれぞれで、Mt-09は巣箱に隠れてしまいますが、No. 2は飼育ケージのアクリル窓ごしに「フーッ！」と係を威嚇します。

「フーッ！！」威嚇するNo. 2

ちょっとシャイ（？）なMt-09

エサを食べ終えたヤマネコは、ていねいに毛づくろいをし、歩きまわったり伸びをしたり眠ったりと自由に過ごします。そして明け方頃には眠り込んだのか、丸くなったままジッとしています。

こうしてみるとセンターのヤマネコは一日のほとんどを眠っているようですが、これは自分で食べ物を探して歩き回る必要がなく、また外敵がいないので身をまもる必要がないからだと考えられます。テレメトリー調査などで、野生のヤマネコは、日没後活発に活動することが多く、昼に活動する日や夜中に活動する日もあることがわかっています。夜だけ活動すると思われているようですが、活動時刻は必ずしも一定ではないようです。

人の動き

センター開所時からヤマネコの調査や飼育に携わっていた川口誠さんが退職しました。川口さんからのメッセージです。

このたび9月30日をもちまして対馬野生生物保護センターを退職しました。1997年8月1日からの約4年間センターで勤務しましたが、貴重な体験をたくさんさせていただきました。今後は、ツシマヤマネコに直接かかわることはなくなりますが、ツシマヤマネコ、そして、それにかかわる方々を応援しております。本当にお世話になりました。

対馬野生生物保護センターからのお知らせ

☆休館日☆

通常は月曜が休館ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認下さい。

10月1・9・15・22・29
11月5・12・19・26
12月3・10・17・25・29・30・31
1月1・2・3・7・15・21・28

≪定期購読について≫

「とらやまの森」はセンターのカウンターからご自由にお持ちかえり頂いていますが、定期購読も受け付けております。詳細はセンタまでお問い合わせ下さい。また、バックナンバーにつきましても同様に受け付けております。

第15号は来年1月発行の予定です。

「とらやまの森」は自由にコピーして周りの方々にもお配り下さい。また記事を引用される際には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

季刊 とらやまの森
発行　対馬野生生物保護センター

連絡先
〒817-1605
長崎県上県郡上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター
電話：09208-4-5577
ﾌｧｯｸｽ：09208-4-5578
E-mail：RO-TSUSHIMA@env.go.jp

ツシマヤマネコ受難相次ぐ！

残念なことに、ツシマヤマネコにとって暗い年末年始となってしまいました。

12月18日にイヌによってかみ殺された死体、26日には交通事故による死体が発見されました。また、12月30日と1月11日には、とらばさみにかかって大けがをしたヤマネコが保護され、そのうち1頭（1月11日に保護されたヤマネコ）は、衰弱が著しく手術6日後に死亡してしまいました。12月30日に保護されたヤマネコは、左前足の足首から下の部分を切断する手術を行い、その後は順調に回復しています。

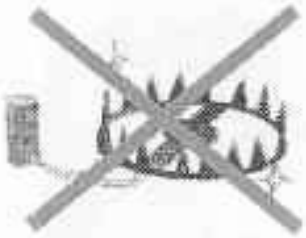
1月11日に保護され、手術をしたものの、17日に死亡したツシマヤマネコ

事故により、一ヶ月の間にメスが3頭死亡したことになり、今後の繁殖に大きな痛手です。

島民のみなさまには、ツシマヤマネコを絶滅から救うために、以下のご協力をお願いいたします。

島民のみなさまへ　－ご協力をお願いします－

1．とらばさみの使用はやめてください。



とらばさみは、動物に与えるダメージが非常に大きく、限定された場合にしか使用できないことになっています。

動物に鶏小屋などを襲われてお困りの方は、とらばさみなどのわなに頼るのではなく、鶏舎を頑丈にするなどの自衛手段を講じてください。被害が続く場合には、対馬野生生物保護センター（09208-4-5577）にご連絡ください。小屋補強のお手伝いをすることも含めて、ご相談に応じます。

2．イヌはつないで飼ってください。

これまで、数頭のツシマヤマネコがイヌによってかみ殺されています。イヌを飼っている方は、次のことを守って飼養してください。

- ○ つないで飼う
- ○ 散歩はつないで行う
- ○ 野山に捨てない
- ○ 猟犬はその日のうちに回収する。

3．安全運転をお願いします。

島内で運転される方は、道路際に十分ご注意の上、スピードを落とした運転を心がけてください。これまでのツシマヤマネコ交通事故が多発しているところは、峰町以北の両側に山が迫っている場所です。また、夜間は、ヘッドライトに反射する目に注意してください。

日韓ヤマネコシンポジウム開催

昨年の11月24日に上県町中央公民館に約200名が集まり、日韓ヤマネコシンポジウムが開催されました。最初に、韓（ハン）　尚勲（サンフン）氏（韓国：野生動物聯合）から、「韓国の野生動物の現状」について多彩なスライドと共に紹介していただきました。日本に似ていますが、どこか違う韓国の風景や動物たちの姿を楽しみ、そして日本と同じように野生動物や自然についての問題があることが分かりました。その後、柚木（ゆのき）　修（おさむ）氏（ナチュラリスト）の司会により、「住民とヤマネコとの共存を目指して」のタイトルで、壇上のパネラーの皆様だけでなく会場の参加者からも活発な発言があり、ツシマヤマネコをめぐって熱い語らいが繰り広げられました。

この絵はがきはセンターで差し上げます

パネラーは、韓（ハン）　尚勲（サンフン）氏（前出）、韓（ハン）　龍雲（ヨンウン）氏（韓国野生動物研究所）、伊澤雅子氏（琉球大学理学部）、鳥居厳男氏（環境省自然環境局）、廣田貞勝氏（上県町長）、山村辰美氏（ツシマヤマネコを守る会）でした。

また、シンポジウムの中で「ツシマヤマネコ絵はがき・標語コンクール」の入賞者の葉山恵梨香さん（田平町）、山口紗愉香さん（上対馬町）他の皆さんが壇上で表彰されました。

新作展示の紹介

センターの展示室に、新しい展示が2つ増えました。

ひとつはフンについての展示です。ヤマネコが何を食べているかを知るためには、フンの中に何が入っているかを調べます。ヤマネコのフンから取り出したネズミの骨や毛、昆虫、ヤマネコの毛、イネ科草本などを観察すると、季節による食物の違いなども知ることができます。新しい展示ではそれらのフンの中身を実体顕微鏡（じったいけんびきょう）で見ることができます。学校や家庭でできる簡単なフン分析の方法も紹介しています。

もうひとつは、ヤマネコの写真撮影についての展示です。対馬島内各地でヤマネコを自動的に撮影する調査が行われています。動物の体温を感じるセンサーを使用して、カメラの前を動物が通ると写真がとれる仕組みになっています。センターに来て写真にとられるヤマネコの気分を味わってみてください。この装置でとれたとっておきの写真集もありますよ。

写真右：フン分析の結果を実態顕微鏡で観察中

人の動き

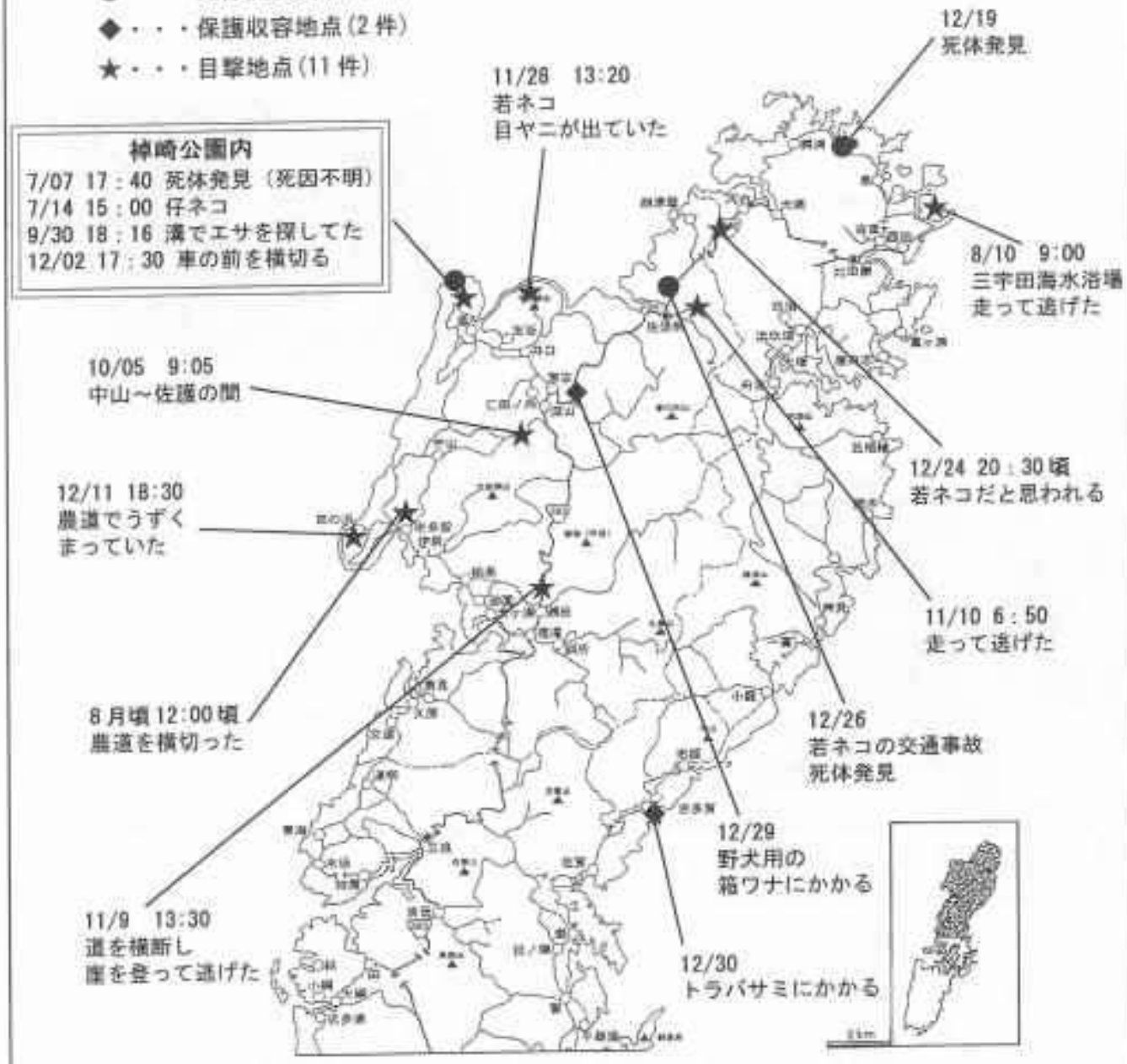
はじめまして。2001年11月よりセンターに赴任しました事務補佐員の村山　晶です。対馬に来るのも住むのも初めてですが、毎日おいしい海の幸を食べてこちらの生活を満喫しています。大学生のころからずっと野生動物にかかわる仕事ができれば、と願っていましたが、ここでツシマヤマネコに関わることができてとてもうれしく思っています。今年3月までこちらでお世話になる予定です。短い期間ですが、よろしくお願いいたします。

ツシマヤマネコ生息情報

【2001年後半：6月～12月】

対馬野生生物保護センターでは野生生物の情報を集めています。2001年の6月～12月に皆様から寄せられたツシマヤマネコの目撃情報まとめました。

●・・・死体発見現場（3件）
◆・・・保護収容地点（2件）
★・・・目撃地点（11件）



2001年は、車の事故・犬の被害など、残念ながら3頭のヤマネコの死体が発見されました。ヤマネコを絶滅させないために皆様の力をかしてください。ヤマネコを目撃された場合は、ぜひ対馬野生生物保護センターまでお知らせ下さい。皆さんから寄せられた情報は、貴重な生息情報として今後の保護活動に役立てていきます。

情報を提供下さった皆様、協力ありがとうございました。

センターで飼育中のツシマヤマネコ日記

1ページ目で紹介した2001年12月30日に峰町でトラバサミにかかったヤマネコFs-11（2001年の春生まれと思われる若いメス）のその後をお知らせします。

Fs-11は、左前足の先をワナにはさまれていたので、足首から先を切断する手術を受けました。手術後の経過は順調で、手術後8日目には抜糸をしました。保護された時は全長70cm（鼻先から尾の先までの長さ）、体重1.5kgとやせていましたが、1月末には2kgを超えるまでになりました。首周りも太くなり、術後つけていた特別な首輪（右写真のラッパ状のもの。自分で傷口をなめたり噛んだりするのを防ぐ）がきゅうくつになってきた様なので18日目に外しました。左の前足を失ってしまいましたが、今では自力でネズミを捕まえることが出来るようになり、エサをもりもり食べ、おてんばぶりを発揮しています。

手術直後の様子。前足は包帯で巻かれています。

一月末の様子。とても元気になりました。

ツシマヤマネコを調べたぞ！

今年たくさんの小中学校がツシマヤマネコの勉強をするためにセンターにやってきました。館内でビデオをみたり、棹崎公園の中へヤマネコの痕跡をさがしに行ったり、質問ノートを作ってきてセンター職員にたくさん質問したりと、みんな真剣に学習していました。

←「フン発見！」割りバシで袋につめ、持ちかえって何のフンかを調べます。2001年10月6日 浅海中学校

対馬野生生物保護センターからのお知らせ

☆休館日☆

通常は月曜が休館ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認下さい。

2月4・12・18・25
3月4・11・18・25
4月1・8・15・22・30

≪定期購読について≫

「とらやまの森」はセンターのカウンターからご自由にお持ちかえり頂いていますが、定期購読も受け付けております。詳細はセンターまでお問い合わせ下さい。また、バックナンバーにつきましても同様に受け付けております。

第16号は4月発行の予定です。

「とらやまの森」は自由にコピーして周りの方々にもお配り下さい。また記事を引用される際には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

季刊 とらやまの森
発行　対馬野生生物保護センター

連絡先
〒817-1605
長崎県上県郡上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター
電話：09208-4-5577
ﾌｧｯｸｽ：09208-4-5578
E-mail：RO-TSUSHIMA@env.go.jp

今年もツシマヤマネコ仔ネコ誕生！（福岡市動物園）

福岡市動物園で、３月21日に１頭、４月９日に２頭、ツシマヤマネコの仔ネコが誕生しました。残念ながら、３月21日に生まれた仔ネコは４月４日に死亡してしまいましたが、４月９日生まれの２頭は順調に育っています。これで、福岡市動物園生まれのツシマヤマネコは４頭になりました。

今回生まれた２頭の仔ネコのお父さんは、1996年に上県町内で仔ネコで保護されたヤマネコ、お母さんは、2000年に福岡市動物園で初めて生まれたヤマネコ（通称9号）です。動物園生まれの９号にとって初めての出産ですが、良いお母さん振りを発揮し、仔ネコたちに気を配っています。

大人になって出産した９号

仔ネコの頃の９号
（2000年4月18日生）

ヤマネコのための環境づくり「木庭作（こばさく）」の再現

写真：麦が育つ中山の木庭作整備地
（4月21日撮影）

今年２月、センターでは、中山地区でヤマネコの餌（ネズミなど）をふやすために「木庭作」を復活させる活動をはじめました。「木庭作」とは、かつて対馬で自給自足の生活のためにさかんに行われていた山中でのソバ、麦、サツマイモなどの栽培のことです。しかし現在では、食糧難の解消とともにほとんどみられなくなりました。

木庭作がなくなったことがネズミの減少を招き、結果的にヤマネコの数を減らす原因のひとつとなったのではとも言われています。

時代の流れと共にその本来の役割を終えつつある木庭作ですが、自然に近い形でヤマネコの餌となる小動物を増やすことができるため、センターではその効果に注目しています。今年度も、対馬各地にヤマネコのための木庭作を広げることを目指し、この活動を続けていく予定です。

今号から「とらやまの森」は対馬内全戸配布になりました

ツシマヤマネコ保護増殖連絡協議会を開催しました

3月20日午後、ツシマヤマネコ保護増殖連絡協議会を開催しました。この会議は、行政機関（環境省、林野庁、長崎県、対馬6町など）が集まって、ツシマヤマネコの保護について話し合う会議です。

会議では、前回以降のツシマヤマネコの状況や保護対策の動きを環境省から説明し、その後イエネコ対策や交通事故対策、住民の意識などについて話し合いました。会議の中で、役場の方から、本紙「とらやまの森」は全戸配布が効果的とのご指摘をいただき、さっそく今号から全戸にお届けすることになりました。

今後も、関係の行政機関と協力しながらヤマネコの保護を進めていきたいと考えています。

昨年度に引き続き対馬動物診療所開所

センター飼育中の2頭のツシマヤマネコは、猫の伝染病であるFIV(通称、「猫エイズ」)に感染しています。ツシマヤマネコのFIVは猫（飼い猫・ノラ猫）から感染したと考えられています。

今年も、上県町佐須奈の対馬動物診療所において、九州地区獣医師会連合会による飼い猫の診療活動が4月から11月まで毎月一回行われます。診療内容は、ノラネコを増やさないための避妊・去勢手術、血液検査（猫エイズ、猫白血病のチェック）、検便（寄生虫のチェック）、猫の登録（個体識別用のマイクロチップ挿入）です。飼い主さんの費用負担は一切ありません。

※ 犬は受付けていません。また、猫の一般診療は行っておりませんのでご注意下さい。

診療予定日

4月27日（午後）・28日（午前）
5月25日（午後）・26日（午前）
6月29日（午後）・30日（午前）
7月27日（午後）・28日（午前）
8月24日（午後）・25日（午前）
9月28日（午後）・29日（午前）
10月26日（午後）・27日（午前）
11月23日（午後）・24日（午前）

※お申し込みは各町役場にて

◆ツシマヤマネコにFIV感染を広げないためのお願い◆

・ノラネコを増やさないために、ノラネコにエサを与えたり、残飯や魚のあら等を屋外に放置しないようにしてください。
・飼い猫はなるべく室内飼育をし、避妊・去勢手術を受けさせてください。

島民の皆様のご協力をお願いします。

人の動き

4月より働くことになりました岩本優子です。長崎県民ながら対馬に来るのは初めてです。島内は緑が豊かでセンター周辺も例外ではありません。このような環境で働くことができて大変うれしく思っています。分からないことだらけで、勉強の毎日ですがやりがいのある仕事なので頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

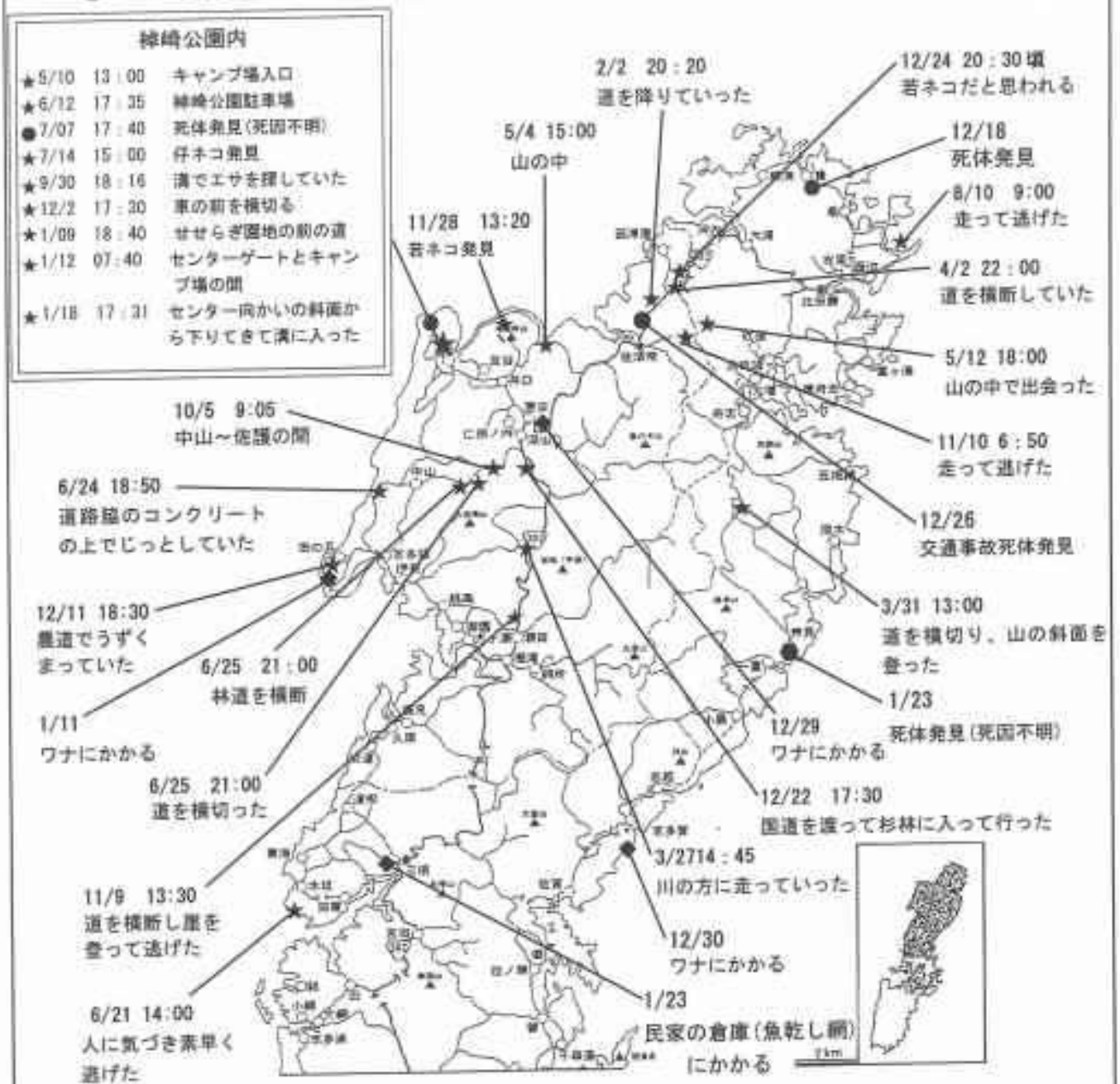
昨年11月よりセンターで働いている村山　晶です。3月で対馬を去る予定でしたが、本年度もこちらでお世話になることとなりました。今年は対馬の色々な場所に出かけてみようと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

※ 他に、センターで2年間働いていた白石明日香さんが、4月から福岡市動物園のツシマヤマネコ飼育担当になりました。今月から始まった福岡市動物園でのツシマヤマネコ飼育日記（4ページ目）をご覧ください。

ツシマヤマネコ生息情報
【2001年4月～2002年3月】

対馬野生生物保護センターでは、野生生物の情報を集めています。2001年4月～2002年3月（13年度）までの、皆様から寄せられたツシマヤマネコの目撃情報をまとめました。

●・・・死体発見現場（4件）　◆・・・保護収容地点（4件）　★・・・目撃地点（26件）



残念ながら、2001年は交通事故・犬の被害などにより3頭のヤマネコの死体が発見されました。またトラバサミにより重傷を負い野生に帰れなくなったヤマネコもいました。ヤマネコを絶滅させないために皆様の力をかしてください。ヤマネコを目撃された場合は、ぜひ対馬野生生物保護センターまでお知らせ下さい。皆さまから寄せられた情報は、貴重な生息情報として今後の保護活動に役立てていきます。

情報を提供下さった皆様、協力ありがとうございました。

新連載！ 福岡市動物園のツシマヤマネコ飼育日記◆◆

こんにちは、4月1日より福岡市動物園でツシマヤマネコの世話をしている白石明日香です。3月までは対馬野生生物保護センターで働いていました。

福岡市動物園では、ツシマヤマネコの人工繁殖をしています。対馬からやってきたヤマネコから、2000年以降毎年かわいい仔ヤマネコが生まれており、2002年4月現在ではオス3頭・メス4頭そして性別不明の赤ちゃん2頭の計9頭になりました。

動物園では、ヤマネコ達に元気な赤ちゃんを生んでもらうため、色々な工夫をしています。今回はその中のひとつ、ヤマネコのエサメニューを紹介します。（右をご覧ください。）

ヤマネコが野生を忘れないために、生きたエサを与えたり、エサがない欠食日を作っています。又、太ってしまうと繁殖しにくくなるので、肉類は脂肪を取り除いて与えています。一日あたりの量は、オス250g以下・メス230g以下を与え、妊娠中・子育て中は量を増やします。

現在、どのヤマネコも病気ひとつせず、元気です。動物園で生まれた仔ネコたちが、いつか対馬の自然の森に帰っていけるように、私たちも頑張っていきたいと思います。

4月9日に2頭の仔ネコを生んだ9号（メス）の普段のメニュー

月…カンガルー肉200g、鶏頭2個
火…ヒヨコ5羽、アジ150g
水…欠食日
木…マウス5匹、鶏頭3個
金…馬肉200g、鶏頭2個
土…欠食日
日…マウス5匹、鶏肉200g

◆センターで飼育中のヤマネコ紹介◆

捕獲時のFm-12の様子

今回ご紹介するFm-12（2001年春頃生まれのメス）は、2002年1月30日に峰町三根で魚の干物を干しているかごに入り込み出られなくなったところを発見、保護されました。

保護当時Fm-12は体重1390ｇ、全長681mmと非常に痩せていましたが、現在は体重2270g、全長705mm（3月28日）と成長し、体調もよくなってきました。そこでマウスやウズラ等の生きエサを捕る練習をするなど、野生復帰のための訓練を始めています。野生に帰せるかどうかは様子を観察しながら慎重に判断したいと考えています。

対馬野生生物保護センターからのお知らせ

☆休館日☆

通常は月曜が休館ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認下さい。

5月7・13・20・27
6月3・10・17・24
7月1・8・15・22・29

≪定期購読について≫

「とらやまの森」はセンターのカウンターからご自由にお持ち帰り頂いていますが、定期購読も受け付けています。詳細はセンターまでお問い合わせ下さい。また、バックナンバーも同様に受け付けております。

第17号は7月発行の予定です．

「とらやまの森」の記事を引用される際には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

季刊 とらやまの森
発行　対馬野生生物保護センター

連絡先
〒817-1605
長崎県上県郡上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター
電話：09208-4-5577
ﾌｧｯｸｽ：09208-4-5578
E-mail：RO-TSUSHIMA@env.go.jp

ツシマヤマネコ２頭が山に帰りました

Fm-12（メス）　野外復帰（5月20日）

病気やけがで保護されていたヤマネコ2頭が、5月20日と6月20日にそれぞれ山に帰っていきました。

1頭（Fm-12：メス（左写真））は、1月30日に峰町で、干物かごに入り込んで出られなくなっていたものです。ひどく衰弱していて、健康が回復するまでの飼育時間が長かったので、野外で生活できるようになるために多くの訓練が必要でした。訓練の成果で、保護されてから4ヵ月後には、なんとか自力で餌を取れるようになりました。

もう1頭（Mm-13：オス（右下写真））は、5月12日に上県町の国道382号線上で交通事故で保護されたヤマネコです。最初は事故のショックで目が見えていませんでしたが、次第に回復し、約1ヵ月後には餌を取れることが確認できました。2頭とも、ケージを開けるとうれしそうに飛び出していきました。

その後、無事に生活できているかを確認するため、首につけた小型の電波発信機（約27g）で追跡しています。2頭とも元気に生活している様子です。

また、2頭はそれぞれ保護された場所の近くの山に放したのですが、そのご近所の方々には、飼い犬をつなぐ、交通事故に気をつけるなどのご協力をいただきました。

犬をつないで飼うことや安全運転は、人間の安全な生活にとっても重要なので、他の地域でもいつも気をつけていたいですね。

Mm-13（オス）

上：保護収容時／下：野外復帰（6月20日）

コラム　消えたヤマネコ

６月２０日に山に帰ったヤマネコ（Mm-13：右写真）は、５月１２日の明け方、国道の真ん中でうずくまっていました。それを最初に発見した人は、すぐに佐護の駐在所に行き、駐在さんと一緒に現場に戻ってみるとそこには何もいません。キツネにつままれたような気分の二人でしたが、気になりながらもそれぞれ帰っていきました。それでも気になった駐在さんは、朝になってセンターに電話してみると、やはりヤマネコは保護されていました。駐在所に行っている間に他の人に保護されていたのです。駐在さん曰く「安心しました。ヤマネコも人の子と変わらんぐらい心配やもんね。」とのこと。

多くの人に心配されたヤマネコでしたが、無事山に帰ることができました。もう事故にあわないで元気に暮らして欲しいですね。

◆木庭作（こばさく）で麦を収穫◆

麦が実った風景

6月、梅雨の合間をぬって、中山地区で行っていた木庭作で、麦の刈り取りを行いました。この木庭作は、ヤマネコのための環境作りの一環として、エサとなるネズミを増やすために作ったものです。種を播くのが遅かったので、収穫できるまでに育つか心配でしたが、黄金に色づいた麦が一面に実っていました。

麦の刈り取りの時に見つかったカヤネズミの巣

刈り始めてしばらくすると、カヤネズミの巣が見つかりました。その後も次々に巣は見つかり、最終的には10ヶ所で確認できました。刈り取った麦は全て持ちかえらず、ネズミのために一部残すことにしました。

今年度は、いろいろな環境でいろいろな作物をつくっていく予定です。

GoGo!! ボランティア活動開始

今号から、センターでボランティア活動を行っている方に、センターや活動についての感想を書いて頂くコーナーを設けました。第1回目は、一番早くにボランティア活動を始めたN.Aさんです。

鶏小屋修理の様子

◆　◆　◆

年末年始に事故や罠で死んだり怪我をしたヤマネコの話を聞き、鶏小屋の補強修理を友人と手伝ったのがセンターとのつき合いの始まりです。環境省＝堅いイメージがあったのですが、実際は気さくな人たちです。地元にとけ込もうと努力されていますので、調査等で見かけたら気軽に声をかけてみてください。怪我をしたヤマネコの保護と治療、野生復帰訓練、放逐後の監視（アンテナを持ってうろついている・かなり怪しい）等、面白い話が聞けるかもしれませんよ。センターを尋ねた時に、ボランティアに参加したいと言えば、自分に出来そうなことを紹介してもらえます。私は林道で痕跡調査（ウンチ拾い）を手伝っています。

センターの研究室は化粧品ではなく、ヤマネコのウンチの匂いがします…

虫が苦手なM.Yさん、夜中に一人で調査に出るN.Mさん、料理上手なA.Mさん、これからどう化けるか楽しみなY.Iさん、またウンチですか？と言うS.Aさん、大変な仕事ですが、頑張ってください！

◇ヤマネコニュース◇

※前号から今号までに起こった出来事です。

5月12日	Mm-13交通事故で保護収容
5月20日	Fm-12野生復帰
5月30日	Fs-11福岡市動物園へ移送＊1
6月20日	Mm-13野生復帰
7月11日	仔ネコの性別が判明＊2

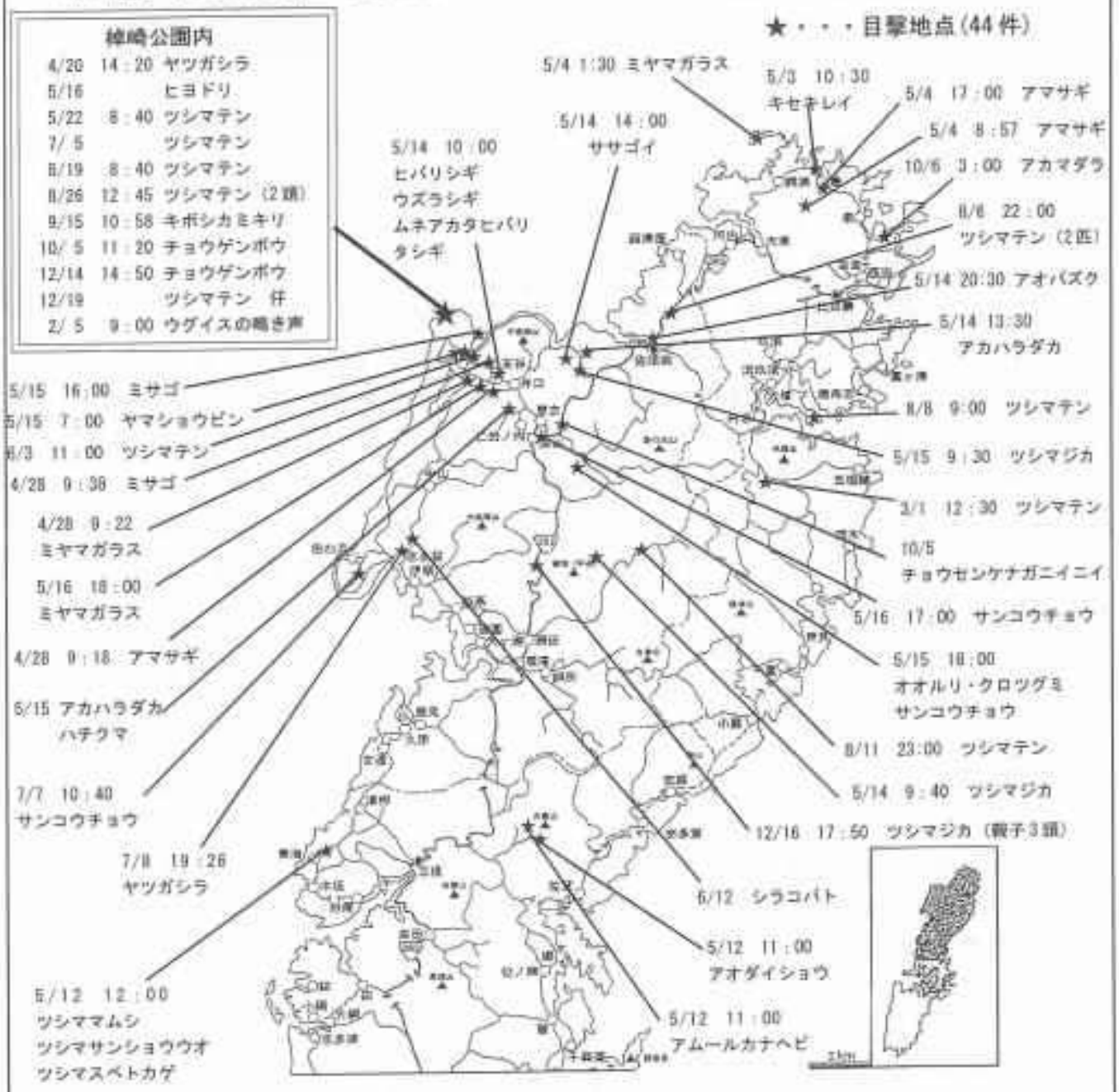
＊1　Fs-11は昨年12月にトラバサミにかかって保護されたメス。左足を切断しており、野生復帰が困難であるため動物園で繁殖に参加します。

＊2　福岡市動物園で4月9日に誕生した2頭の仔ネコが、オスメス1頭ずつであることがわかりました。オスが育っているのは今回が初めてです。今後の繁殖が期待されます。

野生生物の生息情報

【2001年4月～2002年3月】

対馬野生生物保護センターでは、野生生物の情報を集めています。2001年4月～2002年3月（13年度）までの、皆様から寄せられたヤマネコ以外の野生生物の目撃情報をまとめました。



情報を提供下さった皆様、ご協力ありがとうございました。これからも、野生の生き物を見つけたら、対馬野生生物保護センターまでお寄せ下さい。ヤマネコ以外の情報や写真付きの情報も大歓迎です。写真は、センター内の「みんなの写真館」に、展示させていただきます。

みんなで対馬野生生物保護センターにおいでよ！

◆新作展示の紹介◆ センターの活動を紹介するコーナーができました。そこにはツシマヤマネコの保護活動、研究、普及啓発、ボランティア活動などの写真が盛りだくさんです。このコーナーには今後も新しい報告を加えていく予定です。裏面は対馬の植物の写真の展示となっています。

ツシマヤマネコの鳴き声を聞く事ができるコーナーもできました。この声はいつもモニターに写っているヤマネコの声を録音したものです。ヤマネコの鳴き声がどんなものか・・・それはセンターに来た人だけが知ることができます。

展示中のツシマカヤネズミ

そして新たに生き物展示も増えました。ツシマヤマネコの重要な餌であるネズミの一種、ツシマカヤネズミです。もっとも小さいネズミのひとつで、展示用ケースの中に、ワラでできた小さな巣（カヤ）から、時々かわいい顔を覗かせてくれます。

◆第１回自然教室「野鳥講座」を開催しました◆

去る６月２３日（日）、センター主催の自然教室が開かれました。記念すべき第１回は、ナチュラリストの柚木修氏による「野鳥講座」でした。参加者は、柚木さん撮影による映像を見ながら、野鳥の行動から知るその生活についての話に興味深く聞き入っていました。今後、この自然教室は月に１度程度をめどに様々な講師をお招きして開催する予定です。

★センターの夏のイベントほかのお知らせ★

当センターはおかげさまで今年7月31日で開設5周年を迎えます。今年の夏は様々なイベント・展示を用意して皆様のご来館をおまちしております。申込み・お問合せはセンターまで。

日付		イベント	時間	定員	参加費
7/21	日	第２回自然教室 國分英俊先生「対馬の植物」（終了しました）	13～15時	５０名	無料
7/27	土	親子ツシマヤマネコ痕跡探しハイキング	13～17時	２０名	200円
7/28	日	ヤマネコはどこにいるのかな？（電波発信機調査体験）	10～12時	１５名	200円
7/28	日	第３回自然教室 伊澤雅子先生「ツシマヤマネコ講座」	13～15時	５０名	無料
8/11	日	子供ツシマヤマネコ博士養成教室	13～16時	２０名	200円

◎展示「あなたのネコは感染源？」ヤマネコと共通するネコの病気やネコの正しい飼い方について
◎ビデオ「ツシマヤマネコと共存するために～木庭作復活編～」随時上映（8月中完成予定）
◎センター開設5周年記念・木庭作でできた麦の穂を使ったヤマネコ・グリーティングカード販売
◎センター公式ホームページ近日公開

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日を休館日となります。また臨時休刊することもありますので、そのつどご確認ください。

8月　5・12・19・26
9月　2・9・17・24・30
10月　7・15・21・28

《定期購読について》

「とらやまの森」はセンターのカウンターからご自由にお持ち帰り頂いていますが、定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第18号は10月発行の予定です

「とらやまの森」の記事を引用される際には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

季刊 とらやまの森
発行　対馬野生生物保護センター
NEW URL http://www.tsushima-yamaneko.jp/

連絡先
〒817-1605
長崎県上県郡上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター
電話：09208-4-5577
ﾌｧｯｸｽ：09208-4-5578
E-mail：twcc@cool.ne.jp

秋から冬、ヤマネコにとって餌が少ない季節です

ー鶏を飼育している方はご注意ください－

こまめな修繕が大切！

8月11日の朝方、ツシマヤマネコが、上県町で10羽の鶏を襲いました。古くなっていた金網の一部から入り込んでしまったようです。昔は、対馬各地でこういうことが起こっていたそうですが、餌の豊富な夏場としてはめずらしいとのこと。通常、これからの季節（秋から冬）によく起こります。

寒くなるにつれて、ネズミなどのヤマネコの餌が減ると言われています※。また、テンが好きな果実もなくなります。そうなると、彼らにとって、特に鶏が魅力的に見えるのでしょう。

野生動物にとっては、人のものかどうかの区別はつきません。また、襲ったヤマネコやテンを取り除いたとしても、他の個体がやってくるので、きりがありません。つまり、鶏小屋を補強して自衛するしか方法はないのです。鶏を飼育している方は、右のポイントをチェックしてみてください。

※ 根本的な課題としての冬季の餌不足は重要です。「木庭作（こばさく）づくり」も含めて、対策を十分検討していきます。

◆ツシマヤマネコニュース◆

7月11日	福岡市動物園で産まれた仔ネコがオスメス1頭ずつと判明（オスの誕生は初めて）
8月11日	Mm-13が鶏小屋を襲って再保護（交通事故で保護され、6月20日に野生復帰した個体）
8月23日	3頭目のFIV感染個体発見・保護（9月22日）
8月27日	Mm-13が野外ケージから脱走（その後の生存は確認できている）
9月14日	隔離飼育していたFIV感染個体（1996年捕獲）の死亡
9月16日	仔ネコ（Fm-14）がカニかごに入って保護
9月20日	Fm-14を野生復帰させる

◆木庭作ニュース◆

今年も木庭作（こばさく）を行っています。上県町内の13カ所、30aで、アワ、キビ、ソバ、イモをつくりました。秋になり、収穫間近です。（写真はキビ）

◇◇ボランティア日記 vol.2 ◇◇

今回はセンターのHPを作成したN.Mさんです。

身近にある非日常　センターとの付き合いが始まったのは、今年の3月でした。年末年始にツシマヤマネコの交通事故が多発したことを知り、ヤマネコの現状をホームページ（HP）で全国に発信しようと思い、センターに写真や情報の提供をお願いしたのがきっかけです。

それから半年。趣味のHPはいつしか公式HPとなり、多くの方と出会い、ヤマネコを目撃（！）し、毎月のようにセンターのイベントに参加するようになりました。デジカメで道端の花などを撮影しながら、2時間かけてセンターにたどり着くと、笑顔が優しいA、Sさん、マイペースなI、Yさん、言動が不思議系のM、Nさん、クールな外見とは裏腹にノリのいいY、M保護官、料理上手で感情豊かなM、Aさん、個性的なボランティア・スタッフの皆さんが、ヤマネコ保護というちょっと不思議な活動に情熱を燃やしています。

この島にツシマヤマネコという奇妙な生き物がいて、その生き物を守ろうとしている不思議な人々の輪がここにあります。この輪に参加してみませんか？好奇心があなたを意外な場所に導いてくれるかも？

ホームページアドレス
http://www.tsushima-yamaneko.jp/

◇◇楽しかったよ！夏休みイベント◇◇

7月27日　痕跡探しハイキング

子どもたちの夏休みにあわせて、センターでは3つの子ども向けイベントを行いました。1つめは7月27日（土）に行ったツシマヤマネコ痕跡探しハイキングです。林道を歩きながらヤマネコのフンを拾い、それをセンターに持ち帰ってヤマネコが何を食べているか調べました。　最初は皆こわごわという感じでしたが、まず子どもが慣れ、そのうち大人も夢中になってフンを観察していました。

8月11日　子どもツシマヤマネコ博士養成教室

次の日の7月28日（日）は棹崎公園内で、野生動物の調査手法の1つであるテレメトリー調査の体験を行いました。　隠した発信機を、手にもったアンテナと受信機を使って探します。まるで宝捜しのようで、子どもたちだけでなく一緒に来た大人たちも楽しんでいる様子でした。

3つめは8月11日（日）に行った子どもツシマヤマネコ博士養成教室です。このイベントは、名前は良く聞くけれども、その姿や形、住んでいるところなどはあまり知らないツシマヤマネコについて、正確な情報を知ってもらうことを目的にしています。実習に来ていた大学生手作りのクイズ（食べ物、住んでいる所、毛）をしながら楽しく学び、最後に講座のまとめとして野生に暮らすヤマネコの絵を描きました。ネズミを追いかけるヤマネコや、草原を走るヤマネコなど、のびのびと暮らすヤマネコの姿が皆上手に描けました。

楽しいだけでなく、ヤマネコについていろいろなことを知ったり、自然に親しむきっかけにもなるイベントに参加してみませんか。今後のイベント日程は4ページに掲載しています。

ツシマヤマネコ生息情報

【2002年4月～2002年9月】

対馬野生生物保護センターでは、野生生物の情報を集めています。2002年4月～2002年9月までの、皆様から寄せられたツシマヤマネコの目撃情報をまとめました。

●・・・自動撮影（2件）　◆・・・保護収容地点（1件）　★・・・目撃地点（9件）

ヤマネコは、人里近くでも目撃されています。道路での目撃情報や交通事故もあります。特に上県郡内では、どなたもツシマヤマネコに遭遇する可能性があります。交通事故には十分気をつけて安全運転をお願いします。

また、ヤマネコとイエネコは、大きさや模様が似ているものがあります。見分けるのは少し難しいので、ぜひ、センターの展示や剥製で、ヤマネコの特徴を確認してみてください。

ヤマネコを目撃された場合は、対馬野生生物保護センターまでお知らせ下さい。

来館された方が舟志川近くの林でツシマヤマネコを撮影されました（2002年3月31日）。この写真はセンターの「みんなの写真館」にカラーで展示してあります。

情報を提供下さった皆様、ご協力ありがとうございました。

◎ 自然教室、好評開催中です！◎

第5回「対馬の海の世界」
国分 安則 氏（右）
柚木 修 氏（左）

6月からスタートした自然教室は、その後、毎月1回ずつ開催しています。対馬の自然のすばらしさを知り、それを生かした地域作りの参考となるように、毎回ユニークな講師をお招きし、講演していただいています。20名から50名のご参加がありましたが、リピーターも多く、またアンケートでの評判は上々です。そして毎回、講演後には参加者からの鋭い意見・質問が飛んで、活発な議論がおこなわれました。希少野生生物であるツシマヤマネコの住む対馬で、人間の活動と野生動物・自然環境が共存するために、市民レベルでは何ができるかを考えるための一助となればと思います。過去の自然教室の内容についてはホームページに詳しく掲載されていますので、そちらもご覧下さい。

今後も、アンケートで希望の多かった下島での開催や野外観察会なども含めて、開催を続ける予定です。第6回以降の予定は下記のイベントカレンダーにありますので、みなさまお誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

★秋のイベント・自然教室のお知らせ★

日	時間	イベント	内容	場所	対象	参加費
10月27日（日）	13時～17時	ツシマヤマネコ痕跡調査ハイキング	ツシマヤマネコの落し物、フンが残してくれる情報をどうやって調べるのか、自然観察をしながらその調査法を学びます。	対馬野生生物保護センター	小学生以上	保険料100円
10月31日（木）	18時～20時	第6回自然教室「ツシマヤマネコ保護の取り組み」山本 麻衣（環境省・対馬自然保護官）	対馬野生生物保護センターでの活動や環境省のツシマヤマネコ保護の取り組み。これからの計画について。自然教室初の下島での開催です。	厳原商工会館2階 会議室	一般	無料
11月17日（日）	10時～12時	ヤマネコはどこにいる？（電波発信機調査体験教室）	ツシマヤマネコの行動や、どんな環境で暮らしているのか調べるために使われている、電波発信機の体験教室です。	対馬野生生物保護センター	小学生以上	保険料100円
11月24日（日）	10時～14時	第7回自然教室「御岳自然観察ハイキング」国分 英俊 氏（豊小中学校長）	秋の御岳に登りながらの植物、動物観察を行います。途中、ヤマネコのフンや思いがけない生き物に出会うかもしれません。	御岳公園駐車場集合（国道沿い）	一般	保険料100円
12月8日（日）	13時～16時	第8回自然教室「エコツーリングと環境保護のあり方～イラワジカワイルカの例を通して～」岩重 慶一 氏（東京水産大学客員教授）	イラワジカワイルカによるエコツーリングなどをコーディネートしてきた講師から、これからの環境保護と地域活性化のあり方をお話していただきます。	対馬野生生物保護センター	一般	無料
12月15日（日）	13時～16時半	ツシマヤマネコ博士養成教室	ヤマネコの剥製を使って、形や模様のクイズなどをしながら詳細まで観察し、最後にその姿を写生する。これで君もヤマネコ博士！	対馬野生生物保護センター	小学生以上	材料費200円

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日を休館日となります。また臨時休館することもありますので、そのつどご確認ください。

11月 5、11、18、25
12月 2、9、16、24、
年末年始休業 12月29日～1月3日
1月 6、14、20、27

《定期購読について》

「とらやまの森」はセンターのカウンターからご自由にお持ち帰り頂いていますが、定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第19号は来年1月発行の予定です。

「とらやまの森」の記事を引用される際には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

季刊
とらやまの森
発行　対馬野生生物保護センター
NEW URL http://www.tsushima-yamaneko.jp/

連絡先
〒817-1605
長崎県上県郡上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター
電話：　0920-84-5577
ファックス：　0920-84-5578
E-mail:　twcc@cool.ne.jp

ヤマネコ交通事故が増えています。ご注意ください！

冬から春にかけては、ヤマネコの繁殖期にあたり、オスがメスを探して広く行動します。道路を横断する機会も増えると思われます。ヤマネコたちがたくさん子どもを生めるよう、オスとメスの出会いを静かに見守ってあげたいものです。

特に、両側に山が迫っていて、見通しのきかない場所で交通事故に遭っているケースが多いようです。スピードを落として、夜はヘッドライトに反射する光（動物の目）に注意して運転してください。

もし交通事故に遭ったヤマネコを発見した際には、対馬野生生物保護センター（0920-84-5577）までご連絡ください。

ヤマネコ交通事故防止のステッカーです。センターで配布しています。車に貼って安全運転をお願いします。

ツシマヤマネコニュース

美津島町で21年ぶりのヤマネコ情報

前号以降は、多くのヤマネコが保護されたり、死体で発見されたりしました。対馬の山で何が起こっているのでしょうか。一方で、美津島町で21年ぶりにヤマネコの生息が確認されるという、少し明るいニュースもありました。

◇ ◇ ◇ ◇

＜生きて保護されたツシマヤマネコ情報＞

11月6日　上県町井口浜でトビに襲われた亜成獣オスを保護（27日野生復帰）
11月19日　峰町大久保で交通事故に遭ったと思われる亜成獣メスを保護（12月2日復帰）
11月21日　上県町友谷で交通事故に遭った亜成獣メスを保護（27日野生復帰）
11月28日　上県町深山で箱ワナに入った成獣オスを保護（29日野生復帰）
12月10日　美津島町賀谷で箱ワナに入った亜成獣メスを保護（体重回復後に野生復帰訓練中）
12月13日　上県町仁田ノ内で左前足にケガをした亜成獣メスを保護（治療中）

＜死体で発見されたツシマヤマネコ情報＞

11月9日　上対馬町五根緒で亜成獣メス（死因不明、削痩）
11月24日　上対馬町大浦で亜成獣メス（交通事故）
11月29日　上県町佐須奈－佐護間で亜成獣メス（交通事故）
12月23日　峰町志多賀で亜成獣メス（イヌにかまれたと推定、削痩）
12月29日　上県町鹿見で亜成獣オス（交通事故）
12月29日　上対馬町泉で成獣オス（死因不明）
12月31日　上対馬町泉で亜成獣オス（交通事故）

ヤマネコの死体発見に活躍！子どもツシマヤマネコ博士

「これは絶対ツシマヤマネコだ。」センターで開催された『子どもツシマヤマネコ博士養成教室』に参加した中学生の言葉で、センターに連絡が入りました。12月23日の志多賀でのできごとです。

周りの子どもたちはヤマネコかどうか半信半疑でしたが、教室に行った彼は自信たっぷり。センター職員が見に行って「確かにヤマネコだよ」と伝えるととても誇らしげでした。お父さんによると、「少し前までだったらヤマネコだとわからずに埋めてしまっとったよ」とのこと。

最近、「『とらやまの森』読んでます」との声も多く聞くようになりました。少しずつですが、対馬の人たちの意識の中にヤマネコとセンターが根付いてきたのかな、とうれしく思っています。

『ツシマヤマネコ応援団』会員募集開始！

電波発信機調査体験の後参加者、ボランティアの皆さんと

昨年12月10日に、対馬野生生物保護センターを拠点として活動するボランティアグループ『ツシマヤマネコ応援団』が会員募集を開始しました。応援団の中心になるのは、以前からボランティアとして対馬野生生物保護センターの活動に関わっていただいている人たちです。活動は、各自の得意分野を活かしてのセンターの活動補助や子ども向けのヤマネコ教室など多岐に渡ります。また、地元の方々がボランティアとしてセンターに関わってくれることによって、他の地元の人たちとの交流の輪が広がり、より地域に密着した活動を展開することができるようになりました。

このようにいつも支援してくれるボランティアの人たちは、とても心強い存在です。これからも良い関係を築いていけるようセンターとしても努力し、ともにツシマヤマネコ保護のために活動したいと考えています。

応援団会員募集のお知らせ　（発起人代表長崎章さんより）

現在の会員数は１７名です。ともに活動する仲間を募集しています。参加費はニュースレターの通信費やボランティア活動の保険料など年間計約2000円です。

ー応援団設立に至った経緯ー

絶滅危惧種のツシマヤマネコを知っていても、実物を見たことがなく、本当に危機的状況にあるのかと疑問に思っていました。ところが、センターの活動に関わるうちにヤマネコの危機的状況を知り、また、実際にヤマネコを見ると、絶滅だけは防ぎたいと思うようになりました。たまたま拾った糞がツシマヤマネコのものであったこと、一昨年末から年始にかけて、多数のヤマネコが事故や栄養失調で死んだり保護されたことがきっかけで、保護活動に興味を持ち始めました。ヤマネコに関心があれば防ぐことが出来た事故（トラバサミ罠）は悲しい出来事でした。

センターで会った同級生と地元で出来ることはなんだろうと話したところ、とにかく地元住民に関心を持って貰うことから始めようという結論に達し、ボランティアグループを設立することになりました。

お申し込み・お問い合わせ

ツシマヤマネコ応援団代表発起人　長崎章
e-mail: yamaneko_ouendan@hotmail.com
または、対馬野生生物保護センターまで

◇◇今までの活動から◇◇

応援団が行っている様々な活動のうちのいくつかを紹介します。

上：昨年10月27日
痕跡調査体験
右：昨年11月24日
雞岳自然観察ハイキング

昨年夏からセンターで実施しているヤマネコ教室のプログラムの１つ、痕跡調査体験では、事前にルート選び（フンがたくさん落ちている所を探す）、分析道具・資料の準備などを行い、当日は事故が起こらないように気をつけながら参加者の痕跡発見やフン分析の手助けをしています。また、センター主催の自然観察会では、器材の運搬、受付など活動補助をしています。他にもホームページ作成やデータベース作成の補助、近所や職場、各地のイベントでヤマネコ保護などの普及啓発活動、痕跡調査、その他センターの活動補助など、自分のできることや、やってみたいことを活かして活動しています。

今後は今までの活動を継続しつつ、範囲を広げていきたいと考えています。

野生生物生息情報

【2002年4月～2002年9月】

対馬野生生物保護センターでは、野生生物の情報を集めています。2002年4月～2002年9月まで(14年度前半)の、皆様から寄せられたヤマネコ以外の野生生物の目撃情報をまとめました。

★・・・目撃地点(12件)

生息情報の中から

ヤマショウビン（5月7日）

頭は黒、クチバシは赤、のどから胸は白く、おなかはだいだい色、背中は青、カラフルでとても美しい鳥です。インド・東南アジア・中国・朝鮮半島などで繁殖しています。日本に渡来する数は少ない旅鳥なのですが、対馬の佐護地域には、毎年春にやってきます。

ノラネコ情報マップ展示スタート！

ヤマネコにとってノラネコは、共通の伝染病があること、また似たような餌を食べているノラネコもいることから、影響が心配されています。センターでは、1月21日からノラネコの分布情報の収集と展示を開始します。

情報を提供下さった皆様、ご協力ありがとうございました。

楽しい！美味しい！木庭作（こばさく）ボランティアで芋ほり体験

大きなおイモでしょ？

11月17日（日）木庭作で作ったサツマイモ掘りをボランティアを募って実施しました。上県町志多留の木庭作をしている畑に出かけ、いい天気の中、大人も子供も協力しての作業です。普段は畑仕事をしない子どもたちも、大きなサツマイモをざくざくと掘っては歓声を上げていました。採れたサツマイモの一部はその場で黒焼きにしておやつに食べました。黒焼きとは、掘ったばかりのサツマイモを土付きのままで火の中に直接入れて焼きイモにする対馬流の方法です。本来は土の上で火を焚くものなのですが、今回はコンロの中で焼いてみました。子どもたちの中には、口の周りを真っ黒にして焼き芋をほおばる姿がみられました

収穫したサツマイモはセンターの窓口などで販売し、その収益金は対馬野生生物保護基金に寄付しました。今年の秋も木庭作の畑でサツマイモ掘りを実施する予定です。お楽しみに！

厳原から家族で参加しました。

◆木庭作ニュース◆

11月からは収穫の終了した畑の内、3ケ所で小麦を育てています。冬木庭（ふゆこば）の代表作物だった麦類は、かつては対馬山中至る所で作られていました。大麦は加工が大変ですが、押し麦にすると味が良く、好んで生産されたようです。他にも、麦は味噌などの自家製食品を作ることに使用されてきました。冬木庭が自然環境にどのように影響していたのか、とても興味深いところです。

写真：木庭作に協力していただいている志多留の藤分さん。手に持っているのは木庭グワと呼ばれる小型の鍬です。

第9回自然教室「自然観察会」　講師：柚木　修さん

春を感じに棹崎公園へ出かけて、ゆったりしてみませんか？
野鳥をはじめとした野生動植物に親しむ楽しい観察会です。

日時：3月29日（土）午前10時～午後2時まで
会場：対馬野生生物保護センター・棹崎公園
※　事前の参加申込みが必要です。(TEL 0920-84-5577)
※　昼食持参　※　保険料として100円必要です。

カワラヒワ（撮影：柚木 修）

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

2月　3、10、17、24
3月　3、10、17、24、
4月　7、14、21、28

《定期購読について》

「とらやまの森」はセンターのカウンターからご自由にお持ち帰り頂いていますが、定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第20号は4月発行の予定です。

「とらやまの森」の記事を引用される際には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

季刊
とらやまの森
発行　対馬野生生物保護センター
URL http://www.tsushima-yamaneko.jp/

連絡先
〒817-1605
長崎県上県郡上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター
電話：0920-84-5577
ﾌｧｯｸｽ：0920-84-5578
E-mail:twcc@cool.ne.jp

対馬の子どもたちと一緒に・・・
－対馬の自然教育プログラム集作り－

自動撮影装置で撮影されたツシマヤマネコ
HPのトップの新しい顔です！

昨年度、センターでは「目指せ！ツシマヤマネコ博士」シリーズとして3つの教室を行い、今までに3名がヤマネコ博士の認定を受けました。教室にきた子どもたちの中には、ツシマヤマネコの死体を発見してセンターに知らせてくれたり、夏休みの自由研究でツシマヤマネコについてもっと詳しく調べて発表をしてくれたりした子どもたちがいました。

自然について一緒に体験し、学習した子どもたちの生き生きした姿を見て、もっとたくさんの子どもたちに対馬の自然について知って欲しいと考えました。そこで今年度、センターでは環境教育プログラム集づくりをすることになりました。この計画では、1年間かけて、対馬島内の３つの小学校と一緒に、対馬の自然や文化について学習しながら、その面白さや素晴らしさを伝えるためのアイディアをまとめる予定です。自然観察会や総合学習での自然に関する学習が広がり、地域に根ざしたツシマヤマネコの保護がより進むような、楽しいプログラム集を目指します。

こんな風に進めています

「体験的に学ぶ」環境教育基礎セミナー　(2/15)

↑先ずは自ら体験が大切…

2/15に「体験的に学ぶ～環境教育基礎セミナー」を開催しました。講師は各地で環境教育に携わる、古瀬浩史さん（㈱自然教育研究センター）です。これから、対馬での地域に根ざした環境教育を考えてゆくために、先ずは体験的に学ぶことの大切さについて考える機会を設けました。対馬島内で学校教育、社会教育、ボランティア活動に関わる方々が参加されました。

金田小学校の新入生歓迎遠足　(3/15)

今年度、自然について一緒に総合学習を進めてゆく厳原町立金田小学校の新入生歓迎遠足に同行して、野のさえ海岸で磯の生き物観察を行いました。子どもたちは、形の違うものや色の違うものなど、多様な海の生物に気づくと、次々と自ら発見をしていました。

これからたくさんの対馬の子どもたちと一緒に学習することを、とても楽しみにしています。

水中のぞき眼鏡で生き物観察！

●自然をテーマに一緒に総合学習授業を進める学校●
厳原町立金田小学校・上対馬町立南陽小学校
上県町立佐護小学校（※佐護小学校は２学期のみ）

ツシマヤマネコニュース 2003.1～2003.4

2頭野生復帰、動物園では仔ネコ誕生！

12月に、痩せたりケガをして保護収容されていたツシマヤマネコが、2頭山に帰りました。1頭は、21年ぶりの美津島町での生息確認となったヤマネコ、もう1頭は上県町で足をケガしていたヤマネコです。その後電波発信器で追跡をしていますが、2頭ともなんとか元気にやっているようです。

また、動物園では、2頭のヤマネコが誕生しました。残念ながら、4月4日には死産もありましたが、他のメスも交尾が確認されており、5月にかけての誕生が期待されます。今は対馬の山も繁殖シーズンです。仔ネコがたくさん生まれてくれるといいですね。

センターから一つお願いです。山では母ネコが子育てをしています。イヌはきちんとつないで飼っていただくよう、お願いします。

Fg-19野生復帰

- 3月7日　Fg-19の野生復帰（美津島町）
- 3月13日　豊玉町浦底で成獣オスの交通事故死体発見
- 3月25日　峰町三根で若いメスの死体発見
- 3月20日　Fn-20の野生復帰（上県町）
- 4月4日　福岡市動物園で1頭死産
- 4月7日　福岡市動物園で2頭誕生

ツシマヤマネコ応援団　メンバー紹介！

4月20日に総会が開催され、ボランティアグループの「ツシマヤマネコ応援団」が正式に発足しました。今回は、副会長になった野田一男さんをご紹介します。

ある夜10時を過ぎた頃、野田さんからセンター職員に一本の電話が入ってきました。「五根緒の知り合いからヤマネコかもしれん死体があるっちゅう連絡があって、今から見に行こうと思うちょる。」センター職員も野田さんと息子の慎太郎君と一緒に行ったところ、川の中にヤマネコの死体が横たわっていました。発見者によると、「周りの人はイエネコじゃろうと言っとったけど、ボクは野田さんから特徴を聞いていたから間違いないと思った。」とのこと。この死体は野田さんの存在がなかったら、ヤマネコとは知られずに置いておかれたことになります。

野田さんはいつも「外から来たあんたたちががんばっとるっちゅけぇ（がんばっているのだから）、地元のもんが助けてやらんと」と言ってくださいます。野田さんから聞く対馬の自然の話はいつも楽しく勉強になります。これからもよろしくお願いします！

人の動き

春は別れと出会いの季節。センターでも1年間働いてくれた岩本さんから荻野さんへとバトンタッチしました。二人からのあいさつです。

岩本優子さん

現在は結婚し静岡県に住んでいます。こちらものどかな所でいろいろな野生動物（サル、カモシカなど）が姿を見せます。

対馬で過ごした1年間は非常に意義深いものでした。支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

荻野伊万里さん

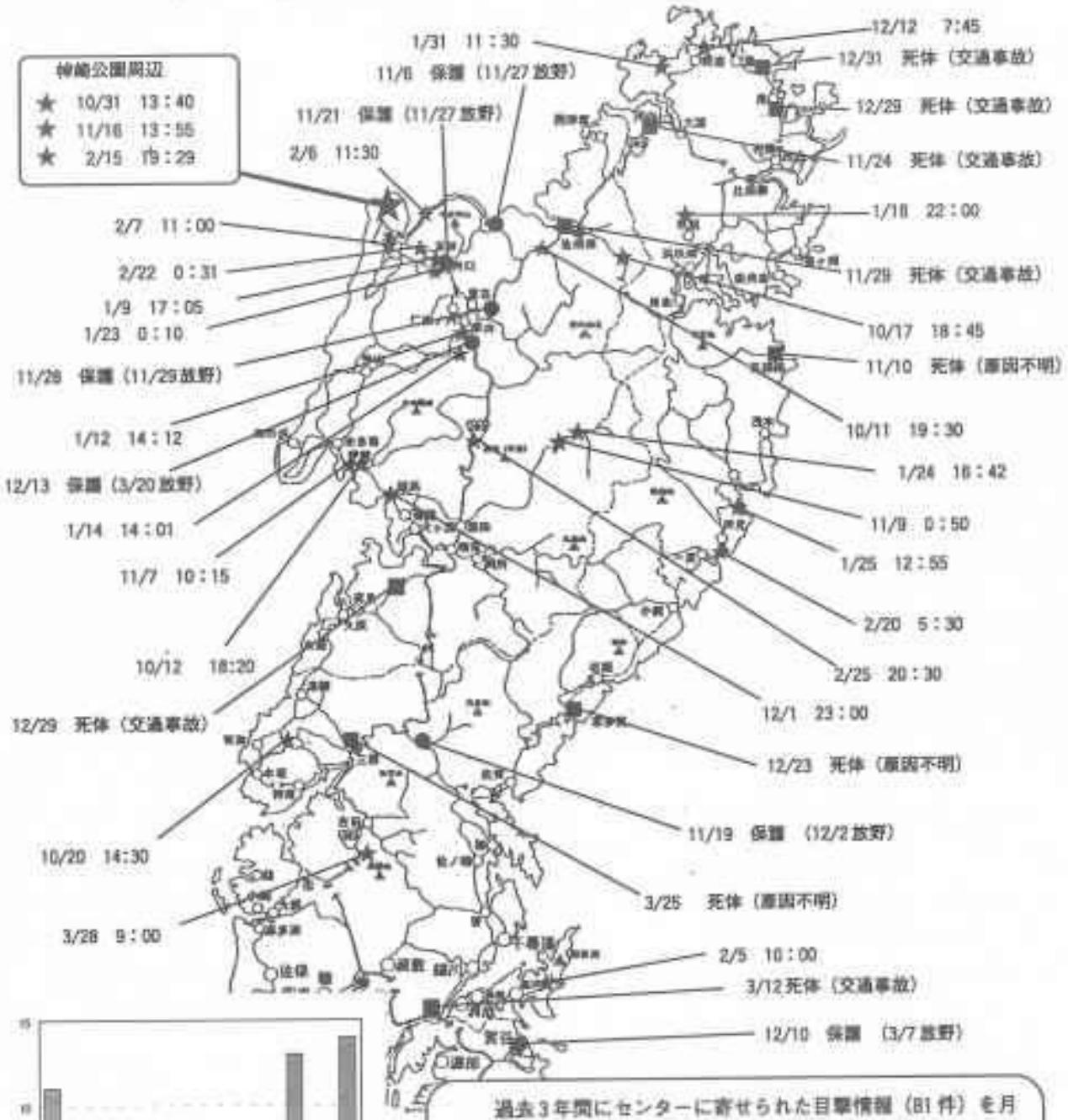
はじめまして。島での暮らしは初めてで、毎日が本当に新鮮で、自分が保護の一部にしっかりとした形で関われることをうれしく思っています。対馬の方々とツシマヤマネコをはじめとする野生動植物にとってプラスとなるよう頑張っていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

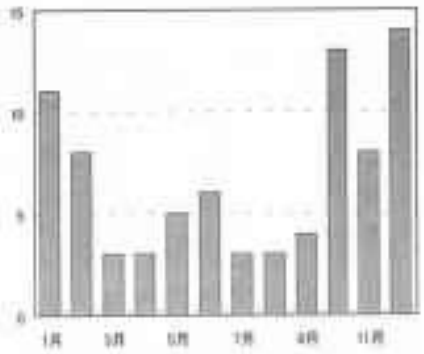
平成14年度後半 ツシマヤマネコ生息情報

【2002年10月～2003年3月】

対馬野生生物保護センターでは、野生生物の目撃情報を集めています。今回は2002年10月から2003年3月（14年度）までの、皆さんから寄せられたツシマヤマネコの情報をまとめてみました。

★・・・目撃地点（26件）　■・・・死体発見地点（9件）　●・・・保護地点（6件）





ヤマネコ目撃情報の月別件数（過去3年間）

過去3年間にセンターに寄せられた目撃情報（81件）を月別に集計したのが、左のグラフです。目撃情報が多い冬は、ツシマヤマネコの縄張れや繁殖の時期にあたります。一方、目撃情報の少ないこれからの時期（春～夏）は、出産と子育ての時期にあたります。この時期、ヤマネコ達は、神経質になって、ひっそりと暮らしているのかもしれませんね。今年も、元気な子ネコ達が育ちますように。

★ 情報を提供下さった皆様、ご協力ありがとうございました

みなさまからの情報募集！！　ご協力お願いします。

◆ツシマヤマネコの「えりまき」など毛皮やはく製情報◆

ツシマヤマネコが数多く生息していた昭和20～30年頃まで、ヤマネコも毛皮（主にえりまき）として利用されていたようです。希少な動物となってしまった現在では、そういった昔の毛皮やはく製は、昔のヤマネコと人との関係などを知る貴重な資料となります。ヤマネコの毛皮やはく製を持っている方は、「いつ頃どこで捕まえたのか」やそれにまつわるエピソードをぜひ教えてください。

ご注意！　毛皮やはく製そのものを集めているのではありません。「情報」を集めています。

◆鳥の死体◆　ヤマネコの重要な餌として、ネズミの他に鳥類があります。フンの中から出た鳥の羽が、どんな種なのかを調べることなどを目的に、羽根標本を作っています。鳥の死体を拾った方は、ご連絡ください。特に、カモ、カラス、サギ、ツグミ、ホオジロなどの一般的によく見られる鳥が不足しています。

羽根標本がズラリ

いずれの情報も、ご提供いただける方は、対馬野生生物保護センター（0920-84-5577）までご連絡ください。

★イベント情報カレンダー★

日	時間	イベント	内容	対象	参加費
5月4日（日）	13時～17時	ツシマヤマネコ痕跡探しハイキング ※申込みが必要です	ツシマヤマネコの落し物、フンが残してくれる情報をどうやって調べるのか、自然観察をしながらその調査法を学びます。	小学生以上	保険料・材料費200円
5月31日（土）	13時～15時	第11回自然教室「たのしく自然を学ぶために～環境教育における科学書の役割」講師：大和茂夫（福音館書店）	自然について学びたい時、科学書を上手に活用することで、新しい世界が広がります。編集者として本作りを通して自然を伝え続ける大和さんに、その楽しさや難しさなど、実際に出来上がった本を参考にしながらお話しして頂きます。	一般	無料
6月8日（日）	13時～15時	ヤマネコはどこにいる？（電波発信機調査体験教室）※申込みが必要です。	ツシマヤマネコの生活や、どんな環境で暮らしているのか調べるために使われている、電波発信機の体験教室です。	小学生以上	保険料・材料費200円
7月13日（日）	13時～16時半	ツシマヤマネコ博士養成教室 ※申込みが必要です。	ヤマネコの剥製を使って、形や模様のクイズなどをしながら詳細まで観察し、最後にその姿を写生する。これで君もヤマネコ博士！	小学生以上	保険料・材料費200円

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

5月　6、12、19、26
6月　2、9、16、23、30
7月　7、14、22、28

《定期購読について》

「とらやまの森」はセンターのカウンターからご自由にお持ち帰り頂いていますが、定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第21号は7月発行の予定です。

「とらやまの森」の記事を引用される際には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。